

No. 50 pp.800-849

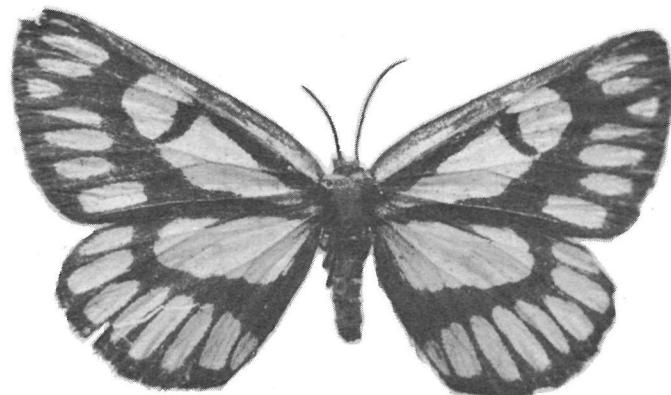
25 - VI - 1987

# 寄せ蛾記

埼玉昆虫談話会

YOSEGAKI: Saitama Kontyū Danwakai

50号記念号



## 表紙の写真

*Schistomitra funeralis* Butler

フジキオビ

埼玉県秩父郡大滝村二瀬 1♀. 市川 和夫 採集

日本特産種。埼玉では三峰山、および三峰山麓の大輪から二瀬、上中尾、  
栃木、川又区にかけて多産する昼行性の蛾。6月に、川岸に咲くニセア  
カシアの花か、ナツツバキの木を注意すると発見は容易。

(注) 杉繁郎氏に、50号記念号の表紙にふさわしい蛾を教えて  
下さいと尋ねましたら、ヤマダカレハ(！)かフジキオビと答  
られました。編集者としては、勿論フジキオビをとります。

..... 50号記念誌発行に寄せて .....

『寄せ蛾記』は、1965年6月1日に手書き謄写印刷4頁の第1号の誕生を見た。矢野重明さんの命名である。1963年に埼玉蛾類談話会として発足した当会なので、当時の大部分は蛾の記事で占められている。

その後、大野正男先生より会の発展のため埼玉昆虫談話会にしてはどうかとのご指摘があり、1978年8月20日からそのように改称し、『寄せ蛾記』も碓井徹さんが編集を担当し、タイプ謄写、タイプオフセット、ワープロオフセットと変わってきた。牧林功さん提唱の金曜セミナーも絶えることなく盛況で、会員も160名を越えるに至った。

そして、会の活動のあかしとなる『寄せ蛾記』の50号は、できれば日頃ご指導いただいている顧問の先生方の原稿で飾りたいと念願した。私から執筆のお願いをしたのが遅く、無理かと危惧ていたのに、御繁忙中にもかかわらず、このように多くの先生方から御玉稿を賜り、巻頭を飾れたことを会員になり代わり心より感謝申し上げます。(掲載は原稿到着順とさせていただきました。)

おかげさまで、素晴らしい記念誌第50号を刊行できることとなりましたが、「地方同好会誌の在り方をよく考えた、楽しい昆虫談話会として発展するように」との顧問の先生方の御意志に沿うべく、会員の皆さんと努力することを約束し、記念号発行のことばとします。

( 埼玉昆虫談話会 代表 市川 和夫 )

· · · · 【特別寄稿】

## 埼玉県産の昆虫類の旧い記録

朝比奈 正二郎

· · · · ·

埼玉昆虫談話会の市川さんから50号記念に何か寄稿してほしいとおさそいをうけた。埼玉県の昆虫を扱った旧い記録は、あまりはっきりした形でさがし出せないのではないかという気がするが、江戸時代の末期に「武藏」という名の地域から採集された田中芳男コレクションには埼玉県産のものも入っていたであろう。これは1867(慶應3)年にパリで開かれた万国博覧会に出品され、そのあとヨーロッパ各地の博物館などに残っていると思うが、恐らくラベルなどついていないのかも知れず、埼玉県産の標本やその記載を発見するのは不可能に近いことであろう。しかし、1893年のシカゴの万博に出品された標本では、少なくともトンボ類については岐阜の近傍で名和靖氏が採集したものであることが判った。

先頃、山崎柄根君から埼玉県産の昆虫の旧い記録は私共兄弟が1933年に記録した秩父山地のもの（朝比奈正二郎・英三, 1933, 奥秩父の昆虫雑記. 昆虫界, 6:630-636）が最も旧いらしいことが伝えられた。これでは些か気になるので、もっと古いものがある筈と思い、手許の昆虫世界や動雑などを少しだめくってみた。

明らかに埼玉県に居住していた昆虫家（業者？）としては、私の知る限りでは鴻巣町の深井武司という人がある。江崎先生の書かれた昆虫学史の中に、この人が明治44(1911)年に鴻巣町に「龍蠅学舎」(dragonfly の直訳！) という研究所を作り、「昆虫学新報」という機関誌を発行した。これは3号までで廃刊になりこの研究所も翌明治45年には閉鎖されたというが、深井氏は東京に出て大正の終わり頃まで標本商をしていたという。この人自身はハチ類に興味を持ち、歐州の専門家に標本を送っていたという。

一寸手許の昆虫世界をめくってみた所、「採蝶余録」(昆虫世界, 16(5):198-201, 1921) というのがあり、ここでは東京での蝶類に触れ、ウラギンヒョウモンの新変種に命名し又ザイツの図説の中の学名の書き方について批判を加えたりしている。又「昆虫学の一面向に就いて」(昆世, 18(10):401-403, 1923) という一文では昆虫の経済的利用（繊維、分泌物、食品）を唱えている。一方昆虫世界18卷9号～11号あたりには巻末の色紙に日本産の蝶や昆虫針・絵葉書などの販売の広告を出している。しかし埼玉県産昆虫類を記録したものは見出せなかった。

万一深井氏から出たその頃の時代の標本が“Konosu”という産地名で外国で記録または記載されているとすると、これは確かに埼玉県産の昆虫標本ということになる。曾つて私はそのような記録を見たような気がするので頭をひねっていた所、これはこれはという事柄を思い出した。

日本の蜻蛉分類学の最重要文献の一つである Ris, F. (1916, H. Sauters Formosa Ausbeute, Odonata, Suppl. Ent. 5:1-117, 3pls.) の論文中に何とこの“Konosu”が続々と出て来るではないか！

Ris の記録した台湾・日本産蜻蛉の中の13種は“Konosu”的標本が記録され、アオハダトンボ“1♀ Saitama, Japan”、オツネントンボ“1♀ Konosu, Japan (VII. 1913, durch A. Heyne-Wilmersdorf)”、ホソミオツネントンボ“1♀ Konosu, VII. 1913”、モノサシトンボ“4♂1♀ Saitama, Konosu, Japan”、モートンイトトンボ“7♂4♀ Konosu”、クロイトトンボ“1♂1♀”、オオイトトンボ“2♀ Konosu”、セスジイトトンボ“3♀”、ホソミイトトンボ“1♀”、コサナエ“1♂1♀”、コヤマトンボ“2♂”、トラフトンボ“1♂”、シオカラトンボ“2♂5♀”という具合であった。

深井氏はドイツの Ch. Schröder をかついで、自分の「新報」の“顧問”としてかかげており、又江崎先生も記されたように、彼は欧洲の昆虫学者に標本を送っていたわけであるから、Ris の資料となった“Konosu”産の蜻蛉標本が彼の手を経由したものであることは間違いないと思う。

曾つて述べたように、シカゴ万博の日本の蜻蛉標本がワシントンの U.S. National Museum に入り、今回の深井送品がドイツの博物館や Ris のコレクションに入ったのはまだ幸いであったと思うが、私は無批判に日本産の未同定の昆虫標本を販売のためや單なる蒐集欲のために無暗に海外に送付する行為には賛成できない。

本文のはじめの所に一寸述べた私達の秩父の記録は、昭和8(1933)年に東大の秩父演習林に植物採集に赴いた拙父について行った時のもので、当時私達は旧制高校生であった。栢本一柳小屋—甲武信岳—(破不山)—樺小屋—(雁坂峠)—鹿の湯—栢本のコースで、各山小屋に泊まってアセチリン燈をたき、可なりの蛾を探ることができた。この前年(1932)に日本昆虫図鑑が発行になり(大図鑑はその前年)蛾の同定が楽になつたので蛾の名称が列記されることになった。その他の昆虫は概して期待外れであった。これらの標本はなお殆ど全部手許にあるが、最も珍品であった Panorpodes 属の♂有翅♀短翅のシリアゲモドキは大分あとになって、一色さんに同定を依頼したが返還されず、又、命名されぬまま、現在ワシントンに送られてしまったものと思う。遺憾千万の次第で未調査の資料をやたらに外国に送ることは等しく慎みたいものである。

(あさひな しょうじろう 〒160 東京都新宿区高田馬場 4-4-24)

· · · · · 【 特別寄稿 】

## 秋山蓮三と川越の昆虫

大野 正男

明治40年4月、当時すでに「海の動物界」、「哺乳動物」などの著者として知られていた新進の博物学者、秋山蓮三氏(31歳)が、三重県立師範学校(現三重大学教育学部)から埼玉県立川越中学校(現川越高校)の教師として赴任してきた。

氏はこのころ、大著「内外普通動物誌」脊椎動物篇、無脊椎動物篇に取り組んでいたようであるが、昆虫に関しては、それまであまり研究の蓄積がなかったらしい。それを克服するためであったのであろう。川越着任後、氏の観察対象は主として昆虫類に向けられた。昆虫に関する氏の報文、あるいは上記「内外普通動物誌」などにとり入れられている昆虫関係の観察記録が、ほとんどすべて川越時代に集中していることから、こうした推理がなりたつ。

しかし、川越の昆虫を研究したのは秋山氏が最初ではない。明治24年(1891)と25年、前後2回にわたり、動物学雑誌に川越の蝶27種を報告した大西 静氏がいる。したがって、秋山氏は、川越の昆虫を研究した人として、歴史的には2人目ということになるが、とりあげた昆虫の範囲が広いこと、生態的な観察が数多く含まれていることなどを考慮すると、実質的バイオニアはこの秋山氏であったように思えてくる。秋山氏の経歴資料、全著作目録、業績評価などは別稿でとりあげる予定にしているので、ここでは詳しくふれない。しかし、埼玉県の昆虫研究史の中で秋山氏の事績を知る人は極めて少ないので、ここでは、氏が川越時代(明治40年～大正2年)に残した記録のいくつかについて(川越を去ってから発表されたものを含む)簡単に紹介しておきたいと思う。

- 1910 冬季の昆虫採集. 博物之研究, 1(3):21～23
- 1910 冬季の昆虫採集(承前). 同上, 1(4):18～21
- 1910 合歓の花に来る昆虫. 同上, 1(5):22～24
- 1910 鱗翅類の卵の採集とその研究法. 同上, 1(10):44～50
- 1910 鱗翅類の卵の採集とその研究法(承前). 同上, 1(11):39～43
- 1911 鱗翅類の幼虫の採集法(其一). 同上, 2(5):24～29.
- 1913 「内外普通動物誌・無脊椎動物篇」:1～1372 (興風社).

本書は川越から大阪へ転出してから刊行された本であるが、原稿は川越時代に完成していたものであろう。昆虫の部分だけで340ページに及ぶ。川越関係の

記事は三芳野村小沼産のムシクサゾウムシ、川越中学校々庭のナミテントウ斑紋型についての資料(7ページにわたる)、川越および比企郡八保村のオオムラサキ、入間郡上寺山産のクジャクチョウ、入間郡根岸産のスジグロスキバホウジャク、前記、博物之研究に発表した“合歓の花に来る昆虫”の転載(これは川越市宮下町での観察記録)、喜多院などで観察したサラサヒトリの生態、川越でのアブラゼミの初鳴き、川越市久保町でのケラの食性についての観察などを含む。

1920 昆虫雑記. 理学界, 18(1):59~62.

上寺山におけるクジャクチョウの採集記録、比企郡八保村でのオオムラサキの羽化期、川越でのゴキブリの野外活動、川越でのジャコウアゲハの羽化期、川越市清水町ほかでのヒオドシチョウ、川越でのマイマイガの発生などの記録を含む。

1920 昆虫雑記(二). 理学界, 18(2):53~54.

喜多院のミズキに発生したキアシドクガ、川越での花に来る昆虫のノート。

1920 秋の昆虫界. 理学界, 18(6):55~57.

川越における採虫日誌からの摘録。9月2日から10月31日までの分71項目を扱う。クワエダシャクの羽化期、ジャコウアゲハの蛹化、アブラゼミの遅い記録(10月15日)、アマチャヅルを食うトホシテントウの幼虫、♀カマキリを食う♂カマキリなど、生物季節的な記録と生態小録的なものが主。新記録と思われる例も少なくない。

1921 晩春の昆虫界. 理学界, 18(10):54~57.

川越および近郊における採虫日誌からの抄録。4~5月分46項目。ヒゲナガハナバチ、メスアカケバエなどの出現期、ヒトリガの加害植物、喜多院や入間郡高麗村のハルゼミ、キタテハが同じ場所に戻る習性、などを扱う。日和田山で羽化後間もないヒメハルゼミの雌1頭を採集したという記録があるが、5月27日の記録であるからハルゼミの誤りであろう。

1929 「動物の観察採集と実験」:1~177(散文館).

昆虫採集月令( p.74~106の項を含み、毎月観察できる昆虫のリストが列挙され、要所要所に解説を付記する)。川越と京都における実地採集・経験に基づいたとあるが、残念ながら、どの種が川越での例であるか区別していない。しかし、川越と明記した記録もいくつかあり(ハルゼミやヒメスギカミキリなど)、クマゼミに関する例のような注目すべき記録も含まれる。

秋山 蓮三：明治9年(1876)東京生まれ。明治35年東京高師卒。以後、山梨・三重・埼玉・大阪・京都の各地で中学校・師範学校などの教職を歴任。川越中学校には明治40年から大正2年まで在職。動物学を中心に博物全般にわたる多数の著書がある。(内外普通脊椎動物誌・脊椎動物篇、同無脊椎動物篇、内外普通脊椎動物誌、哺乳動物、海ノ動物界、動物界の現象と人生、趣味の動物採集と実験、受験學習参考博物通論、同動物学、同植物学、同生理衛生学、同鉱物学、受験参考新制動物学、同植物学など)

(おおの まさお 画350-02 入間郡鶴ヶ島町脚折町2-19-14)

.....【特別寄稿】

## いるま蛾報（1）

井上 寛

.....

1972年の秋おそらく、現住地に建てた新居へ引っ越して来た。横浜で生まれ育ち、終始神奈川県の海に近いところで生活していた私にとって、内陸の山の中でくらすのは初の体験である。勤務先の大妻女子大学の狭山台校に近く、千代田区の本校へ通うため西武池袋線の駅まで10分位で歩いて行けるところで、しかも毎晩自宅の灯火で蛾のとれるような立地条件の揃った場所をさがすのに、先ず神奈川県の藤沢市から入間市内の借家に移って来た。それから半年ばかり、毎週のように土地の不動産屋の案内で、市内のあっちこっちを見て歩いた結果、西武線の仏子駅と元加治駅のほぼ中間で、周辺に樹木の繁った山際に居を定めることにした。

私がほとんど毎晩のように灯火採集を続けて15年たった現在の家は、飯能から入間にかけて細長く伸びる加治丘陵（別名、阿須山丘陵）の一角で、家のすぐ前に岡がせまり、クヌギやコナラを主とする雑木林となっている。家から南へ向かって10分ほど丘陵を登りつめ、東へ山伝いに2~30分歩くと、サイクリングコース、武蔵野音大の裏を経て金子坂に到る。武蔵野のおもかげの色濃く残る山林の続く、まことに静かな環境だし、狭山台校の研究室まで車で12~3分、元加治駅まで歩いて10分もかかるない。しかも二階のベランダの灯火には毎晩いろいろな蛾が飛んでくる。当初描いていた条件を充分に満たす場所である。

引っ越してすぐの1972年の冬には、玄関の電灯にフユシャク、フユナミシャク、フユエダシャクが何十匹も飛来し、元旦でも採集ができる大いに感激すると共に、これから実りの多い日々が約束されたように思われた。

夜間採集と言えば、もっと深い山や高い所へ出掛けるのが普通なので、平凡な平野部で一年を通じての採集は、コレクションを充実させるばかりでなく、分布上からも数々の発見があるはずである。100年前にH. P r y e r の採集した蛾は、B u t l e r やL e e c h によって記録されたり、新種として記載されたが、「Yokohama」と産地の書かれた種のなかには、のちに山地や高原で再発見されても、横浜のような平地には生息していないだろうと推測されていたものが少くない。たしかに、ラベルには「Yokohama」でも、神奈川県の大山あるいは長野県の追分あたりでとれたものもあるだろうが、私がここで採集して見た結果では、意外な種が平野部に残っているので、今の横浜は



自宅の左手は雑木林。その陰に隠れたベランダが私の採集場所

100年前とはまったく環境がちがってしまったことを、今更のように感じるのである。

たとえ二次的な自然であっても、このような良い環境がいつまで残るかまったく保証されていないので、将来開発によって、昆虫も野鳥もいなくなってしまう懸念がある。したがって、今のうちにできる限り採集調査をして、証拠を残して置きたいと思う。幸いなことに、宅地開発のための地ならしや山林の伐採は、まだ私の家の周辺まで及んでいないので、引っ越して来た当時も現在も環境はほぼ同じである。

長いあいだ同一地点で灯火採集をやっていると、5年あるいは10年に一度しかとれない蛾もあるし、15年目で見付かった種もあって、発生消長がいつも同じでないことが良くわかる。この15年間に採集し観察した結果の中から、同好者の参考になりそうな事柄を、折りに触れて本誌に記録することにした。

### 《 入間市でとれたスズメガ科 》

*Agrius convolvuli* (Linnaeus) エビガラスズメ

*Psilogramma increta* (Walker) シモフリスズメ

*Sphinx ligustri constricta* Butler コエビガラスズメ<sup>(1)</sup>

*Dolbina tancrei* Staudinger サザナミスズメ

- Dolbina exacta Staudinger ヒメサザナミスズメ<sup>(2)</sup>  
 Ambulyx schaufferbergeri schaufferbergeri Bremer & Grey モンホソバスズメ  
 Ambulyx japonica japonica Rothschild フトオビホソバスズメ  
 Clanis bilineata tsingtauica Mell トビイロスズメ  
 Marumba gaschkevichii echephron (Boisduval) モモスズメ  
 Marumba sperchioides (Ménétriès) クチバスズメ  
 Mimas christophi (Staudinger) ヒサゴスズメ<sup>(3)</sup>  
 Callambulyx tatarinovii gabyae Bryk ウンモンスズメ  
 Smerinthus tokyonis Matsumura コウチスズメ<sup>(4)</sup>  
 Cephonodes hylas hylas (Linnaeus) オオスカシバ  
 Ampelophaga rubiginosa rubiginosa Bremer & Grey クルマスズメ  
 Aspilodon himachala sangaica (Butler) ホシヒメホウジャク<sup>(5)</sup>  
 Macroglossum pyrrhostictum Butler ホシホウジャク  
 Deilephila elpenor lewisii (Butler) ベニスズメ  
 Theretra nessus (Drury) キイロスズメ  
 Theretra japonica (Boisduval) コスズメ  
 Theretra oldenlandiae oldenlandiae (Fabricius) セスジスズメ  
 Rhagastis mongoliana (Butler) ビロードスズメ  
 Rhagastis trilineata Matsumura ミスジビロードスズメ<sup>(6)</sup>
- (1) 1973年だったか、家のすぐ前に植えてあるイヌツゲのなかで5~6匹の幼虫を採集したが、その後、成虫も幼虫も見ていない。
  - (2) 1987年6月7日に♂が飛来しただけで、サザナミスズメがごく普通なに対象的である。
  - (3) 5月中旬から7月上旬、及び7月下旬に採れるが、数は少ない。
  - (4) 1987年5月18日に、大学のキャンパス内に植えてあるバラの蕾上に静止している♂を採っただけである。
  - (5) 成虫越冬なので、冬に自宅の門灯や元加治駅の灯りの下に止まっているのをよく見かける。
  - (6) ビロードスズメは多いが、ミスジビロードは、1980年7月、1983年7月、1984年9月にそれぞれ♂が飛来しただけである。
- 23種採れたが、クロスズメ、ホソバスズメ、ハネナガブドウスズメ、ブドウスズメヒメクロホウジャクなどが、今後採れる可能性がある。

( いのうえ ひろし 画358 入間市仏子311-2 )

.....【特別寄稿】

## 西表島のワモンチョウの記録は誤報

白水 隆

南紀生物同好会発行の会誌に「くろしお」というのがある。この「くろしお」第3号(1984年9月30日発行)に、和歌山県串本市の鋸浦海中公園研究所の内田紘臣氏の「西表島の蝶について」(p.41-43)という報文が掲載されている。これは同氏が1983年10月9日から30日までの間、西表島西部の網取にある東海大学海洋研究所西表分室に滞在中に、採集・観察されたチョウの報告で42種が記録されている。この報文の中には、網取ではユウレイセセリは多いが、ヒメイチモンジセセリは見られないこと、ヤエヤマイチモンジの♀かと思って捕らえたチョウがシロミスジであったこと、ヤエヤマムラサキの紫色に輝く♀(!)が♂をぶらさげて飛ぶことなど、が記されており、同氏のチョウの知識はかなりのものであることがこれらの記事から推定できる。この報文の末尾に、きわめて重要な、そして驚くべき記事がある。それは“当研究所〔東海大学海洋研究所西表分室のこと〕の河野裕美氏から1983年3月31日〔採集の〕網取産のワモンチョウ1♀を頂戴した。氏によれば、本種は毎年春先に当所の小池のまわりを訪れるそうである”という一文である。日本新記録種、こんな特徴のある大形種に同定の誤りのあるはずもないが、日本新記録種というからにはともかく確認が望ましい。とくに毎年春先に研究所の庭を訪れるという採集者の言は重大で、このことは土着種の可能性を思わせるに充分である。西表島のチョウ相はすでによく知られているので、ワモンチョウのような顕著な種が見逃されている可能性は考えにくいが、網取という所は船しか交通機関のない陸の孤島で、もし食草がその付近にしかないということであれば、土着種ということもありえないことではない。

私はこの記事を読んでから、東京・関西の熱心なチョウ研究家に会った時、何回かこの話をしたが、こんな報告が出ていることさえ知っている人は一人もいなかった。「くろしお」という印刷物が生物全般を扱うものであるので、チョウ屋の目にとまらなかつたのであろう。また身近な若い同好者にもこの話をして、その事実の確認の重要性を強調した。かねて私からこの話を聞かされていた山崎泰氏(福岡市岩田屋デパート勤務)は、1987年の3月下旬に現地の調査を決行した。網取は研究所のほかには宿泊設備がないので、東海大学海洋学部研究業務科(静岡県清水市)から宿泊の許可を貰い、網取での調査を行ったが、帰ってからの報告ではワモンチョウらしいものの姿は全く見ら

れなかったという。

採集者の河野裕美氏（海鳥の研究家と聞いている）は現在も網取の研究所に勤務されており、私が直接に電話で御連絡をして聞いたところでは、御本人はチョウの研究はされていないが、研究所の庭で採ったチョウを内田氏に贈られたことがあるということで、この話は内田氏の記事と一致する。

山崎氏の現地調査も成果がえられなかつたので、最後の手段として串本市の内田氏に連絡をとり、問題のワモンチョウの写真でも見せて貰えまいかと依頼した。これはこの記録がたんなる迷チョウか土着種であるかは、その標本の顔を見れば推定できはしないかと思われたからである。内田氏の返事では問題の標本は三角紙包みのまま保存しており、必要ならば差し上げましょうということで、先日その問題の標本が私の手許に到着した。開封して私は呆然とした。そこにあったのはリュウキュウムラサキの所謂大陸型♀で、これは夢想だにしなかつた誤同定である。このいきさつを公表することは、内田氏の同定の誤りを指摘することになり心苦しいが、ワモンチョウの記録が印刷物として公表されている以上、将来のことを考えるとやむをえない。内田氏の御了解をお願いしたい。なおこの標本は私の勤める北九州市自然史博物館に保存することになった。

この問題の解決にあたっては、現地調査を行って下さった山崎泰氏、資料・情報を惜しみなく与えて下さった内田紘臣氏、河野裕美氏の御好意によるところが多い。記して深謝の意を表する。

(しろうず たかし 〒814-01 福岡市西区野方 2-46-28)

.....【特別寄稿】

## 埼玉県産江戸時代の昆虫図 (1)

長谷川 仁

本会は1965年6月会誌第1号を発行してから本号を以てめでたく50号を迎られました。

会員幹事諸兄姉のご努力に敬意を表し、心からお慶び申し上げますと共に、今後のご発展を祈ります。

さて、害虫の発生記事や虫送り行事など、昆虫に関わる古い記録は、本県にも種々あります。昆虫の図などにはどんなものが遺されているか、虫譜や寫生帳のなかから拾って、ご参考に供し、お祝辞に代えさせて頂きます。

(I) 「武藏国川越領産物繪図張」享保20年(1735)12月、川越藩里村友左衛門の記録。

本書については既に前川越市立図書館長、岡村一郎氏により詳細な紹介があるので、ご承知の方が多いと思う。<sup>1)</sup>また、ごく最近に「享保・元文諸国産物帳集成」<sup>2)</sup>の復刻が刊行され、徳川吉宗の構想指令に基づく全国諸藩の天然物調査記録の中現在遺っている諸藩調査の控えが一括印刷されはじめた。本篇も第Ⅱ巻中に納められており、全貌が知りやすくなった。

本書に出てくる虫の方言については、岡村氏もまた、「物産帳集成」の解説を書かれた石山洋氏も現在の和名を考証しておられるが、二~三私の考えとは異なる点が見られるので、まず私見をのべ、今後本県関係者の御意見をお聞かせ頂きたく、ここに重ねて紹介する。

これら「元文・享保の産物張」には植物・草・作物・蔬菜・魚・鳥・獸・虫等の目録にその絵図及び解説の「注書」などがあり、或る地域の古き良き時代のフロラやファウナを知ることができるばかりか、当時の方言を知る上で実に貴重な遺著なのである。

本張の虫部は、「かまぎっちょう」というトカゲ図に始まるが、真正の昆虫類は以下の順に記されている。

① さをとめ 「夏の内堀溝に住。螢より少大御座候。色かたち図の如く」

の解説と彩色図がある。(以下同じ)この方言は「早乙女」の意味でミズスマシ類の総称と考えてよいが、螢より大きいという点から見ればオオミズスマシかもしれない。

② 石とち虫 「此虫大きさ五・六分ほど、水中に住。四季共に御座候」

岩上のトビケラ類の巣に幼虫図が添えてある。特に本県では「エビス虫・大黒虫」が古くから知られるので、ニンギョウトビケラ類であろう。本種については岡村氏の研究が前著とは別にある。<sup>3)</sup> なお、他の例を知りたい方は江崎悌三(1934, 1984)<sup>4), 5)</sup>を参照。

③ かつは虫 (かっぱ虫であろう) 「溝堀に夏の間生。秋の末より見え不申候。こがねむしこほど御座候。虫のかたち図の如く。」

カッパムシの方言はタガメやコオイムシなどにもあるが、触角が描かれているから甲虫のゲンゴロウ類である。カッパ虫=ゲンゴロウという方言は千葉・青森県下にもある。

④ ゑぞ 「夏生。秋の末より見え不申候。螢ほど御座候。むしのかたち図のごとく、大豆の葉に付申候」

大豆害虫とすれば、ヒメコガネであろう。この方言は埼玉、八王子、神奈川県下などにある。

⑤ のけがへり 「春より夏の間畠に生じ、冬に至り見え不申候。大き二・三寸。虫の形図のごとく」

一般にこの方言はコガネムシ類の幼虫である。二・三寸もあるというからカブトムシ幼虫にちがいない。のけぞって背中を下にして歩くからの名である。

⑥ 夕顔別当 「夏生じ秋の末より見え不申候。むしのかたち大き図の如く、夕顔の花に付申候」

スズメガ類成虫。夕顔の花蜜を吸い、幼虫が夕顔の葉を食う代表種はエビガラスズメであるが、図が悪いので種名までは不明。ただこの名はスズメガ類の成虫の総称と考えてよく、花蜜に来る種類が多い。虫を「別当」ということは江崎悌三(1941, 1958)<sup>5), 6)</sup>を参照のこと。

⑦ こわむし 「夏野に生。冬は見え不申候。螢より少し大御座候。むしの形図の如く」

これは甲虫類であるが、図が悪く同定できない。コガネムシ科の糞虫類であろうか? この地方で「こわい」というと気分が悪いという意味があるらしいが、この虫の方言は私は知らない。ご教示頂きたいものである。(図1)

⑧ きくすい 「夏生。秋の末見え不申候。大き螢ほど御座候。虫のかたち図の如く、菊の葉に付申候」

菊の葉にたかる虫の図は悪いがキクスイカミキリである。この名は古くから図芸書に見える。

⑨ よな虫 「夏秋米に生じ、冬見え不申候。大き図の如く」

コクゾウムシ類が11頭描かれている。わが国産2種のうちどちらかは不明。

⑩ かなぶんぶん 「夏の内生。秋の末より見え不申候。大きこがねむしほど御座候。虫の形図の如く楷の木に付申候」

コガネムシ類の総称であるが、ドウガネブイブイカ、ナラやクヌギに多い現在のカナブンであろうか。

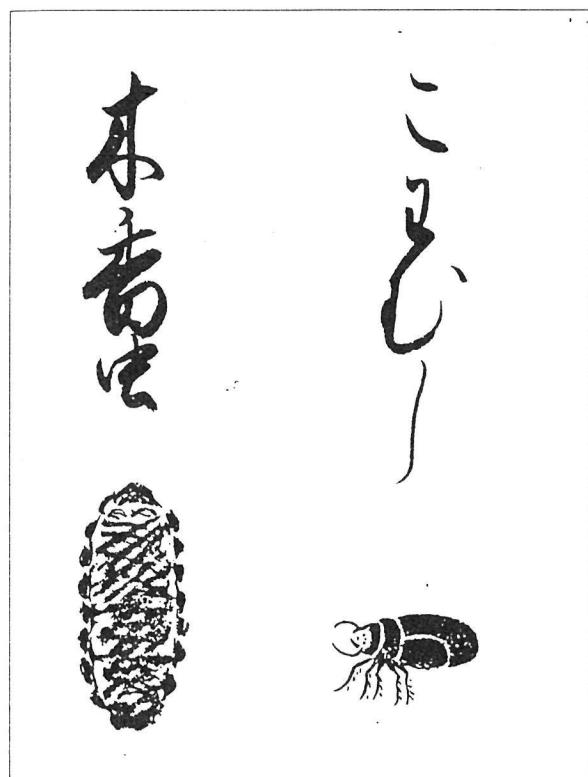
⑪ 木くらい虫 「春生じ冬は見え不申候。大き大方一・ニ寸御座候。虫のかたち図のごとく」

これは図から判断しても方言から見てもカミキリムシ幼虫ではなくボクトウガ類幼虫である。

⑫ こもそう虫 「夏の内生じ、秋の末より見え不申候。大き二・三分大方セミの形に似申候。虫の形図のごとく、行燈に付申候」

こもそうは虚無僧で、アミガサハムシの方言同様、笠を想わせる形のハゴロモ類成虫である。昔は夜アンドンの光に飛来したものと見える。

⑬ よこぶへ 「夏の内生じ、秋の末見え不申候。大き一分ほど御座候。虫の形図の如く行燈につき申候」



横に歩く意味の横這い、が横べえとなり横笛となったのであろう。この名は「千虫譜」などにも見える。明治期に浮塵子=ウンカ・ヨコバイ類と誤用されたので、この類を広い意味のウンカに使ったこともあるが、分類学上かなり異なる昆虫で、灯火には6頭) 来たとすればツマグロヨコバイである。

⑭ うし虫 「夏の内生じ、軒の下などに住申候。秋の末見え不申候。虫の形図の如く」

「毛虫」の意でウジ虫ではない。図は悪いが、まぎれもなく、アリジゴク類である。この関連方言は各地にある。子供達の遊び相手となる虫には方言が多い。次の書に多くの方言が集録されている。

馬場金太郎(1953)<sup>6)</sup>

⑯ みそ虫 「春生じ柚の木、からたちなどに付申候。秋の末より見え不申候。大き一・二寸悪鋪(しき)香仕候。むしの形図のごとく」

図はカラタチの葉上のアゲハ類幼虫である。尾部近くにあるカラタチのトゲが尾刺に見えるし、臭角が細く触角のように見える。

⑰ 山すかり 「夏の内、栗や勝の木などに付有之候。大き一・二寸御座候。形図の如く」

山すがりであろう。クスサンの繭で、幼虫は栗や勝の木(東北か関東にかけてのヌルデ方言)につくと記されて枝にスカシダワラ(繭の名)図がある。

⑱ 木香虫 (モッコウムシ) 「夏の内木香の葉に生じ、大き一寸ほど御座候。秋の末より見え不申候。虫の形図のごとく」

鱗翅類幼虫の一種と思われ、カイガラムシではない。木香はモッコウバラ? 図をごらんの上ご意見を伺いたい。(図1)

[II] 「武藏国多摩郡産物絵図張」(下), 柴村藤右衛門。元文元年(1736)六月の記録。

これは埼玉県内だけではないが、種類も少ないので関連資料としてあげておく(物産帳集成II:333-336) [(上)は未発見]。

① 稲虫 「七月頃稻の葉を取り集つめ巢にいたし住申候。尤巢は稻葉を蓑虫などのごとく拵へ、葉の中央に居候。此虫多く有之年は田作悪敷く御座候。大き一寸ほども有之松けむしほどのごとく薄黄赤く御座候。つと虫ともねくひむしとも唱え呪習し候。」

稻の葉を集めて作った巣の図はきわめて悪いが、イチモンジセセリの幼虫(イネツトムシ、ハマグリムシ)で、カメムシ類ではない。

② いぼじり 「かまきりの(類の字又ケ?)にて図のごとし、夏よりあきのすへ迄有之、夏は色青く、秋は柿色也」

2頭のカマキリの図があるが、種類は単なるカマキリかオオカマキリか不明。後翅に黒斑がないから単なるカマキリ(チョウセンカマキリ)かも知れない。

「諸国物産帳」には別に武藏国各藩(時には郡单位でも)のものがあったにちがいないが、僅かに前記2篇が現存するに過ぎない。きちんと整理されたものは「目録」「絵図」とその解説書である「注書」があるのが物産帳として完全といえる。以上の二例は注書と絵図を兼ねたもので、原色図の最初の原本は見事であったと想像されるが、寫本を重ねて行くうちに、乱れて正体不明の虫図となつた例も多いことであろう。本県関係の別の絵図帳の新発見を祈念してやまない。

1987年6月

寄せ蛾記 50号

[注]

- 1) 岡村一郎, 川越歴史隨筆(川越歴史新書4):34-58 川越地方歴史研究会, 1970
- 2) 盛永俊太郎・安田健編, 享保・元文諸国産物帳集成Ⅱ, (常陸・下野・武藏・伊豆七島):261-297, 科学書院, 1985 (現在5巻まで刊行中 全23巻)
- 3) 岡村一郎:えびす虫と大黒虫, 続川越歴史隨筆:59-71, 1970
- 4) 江崎悌三:人形石の説, 本著 25:674-681, 1934. 同博士著作集 3:245-251, 1984
- 5) 江崎悌三, 別当考, 四不像 7:2-3(考古堂書店, 1941)  
及び江崎悌三隨筆集:112-114, 北隆館, 1958
- 6) 馬場金太郎:蟻地獄の生物誌:19-34, 北隆館, 1953年刊

( はせがわ ひとし 〒202 保谷市東町 1-10-11 )

· · · · ·

## 金峰小屋で灯火採集した蛾

市川 和夫

碓井 徹

· · · · ·

1986年夏に、長野県側より金峰山(2595m)に登り、山頂北側直下にある金峰小屋に2泊した。ここは高木限界付近にある居住環境の良い小屋である。夜には碓井徹が組み合わせを考えて持参した灯火により、蛾の採集を試みたところ、第1夜は好成績をおさめることができた。第2夜は風強く飛来数が少ないので早々と切り上げる。

碓井は、ナショナル BF-661 の携帯蛍光器具(乾電池6本使用、6W)に、ナショナル FL6 BL-B(ブラックライト)およびナショナル 6BA-37K(捕虫用蛍光灯)をつけたものを白布の前に置いて点灯すればよいと考え、当夜は3基を持参して金峰小屋の北側に設置した。

第1日目の夜に飛來した蛾は8科64種で、それには神保一義(1984)<sup>1)</sup>が挙げた「高山蛾」45種のうち、タカネベニハマキ、ハイマツヒメコハマキ(多)、サザナミナミシャク(多)、ソウンクロオビナミシャク(多)、アルプスヤガの5種が含まれ、その他、高山帶に特有のウスグロマダラメイガ、クモマウスグロヤガが得られた。杉繁郎(1982)<sup>2)</sup>が移動性で盛夏には高山で越夏すると推定しているウスグロヤガ、コキマエヤガは、共に個体数が多かった。

採集品の同定と保管は市川が行ったが、ハイマツヒメコハマキを川辺湛、ヒラノヤマメイガを井上寛の両氏に同定していただいた。感謝申し上げる。

採集地：長野県南佐久郡川上村 金峰小屋(海拔2420m)

採集日：1986年(昭和61年)7月31日 18時30分～22時

### [採集品目録]

#### TORTRICIDAE ハマキガ科

- 1 Clepsis jinboi KAWABE タカネベニハマキ 1♂。高山蛾である。
- 2 Olethreutes capiosana (FALKOVITSH) モンギンスジヒメハマキ 1♀。
- 3 Epinotia pinicola KUZNETZOV ハイマツヒメコハマキ 11exs. (川辺湛 同定)。昼間に金峰山附近の稜線のハイマツ帯を歩くと、飛び立つ個体が多い。高山蛾である。

## PYRALIDAE メイガ科

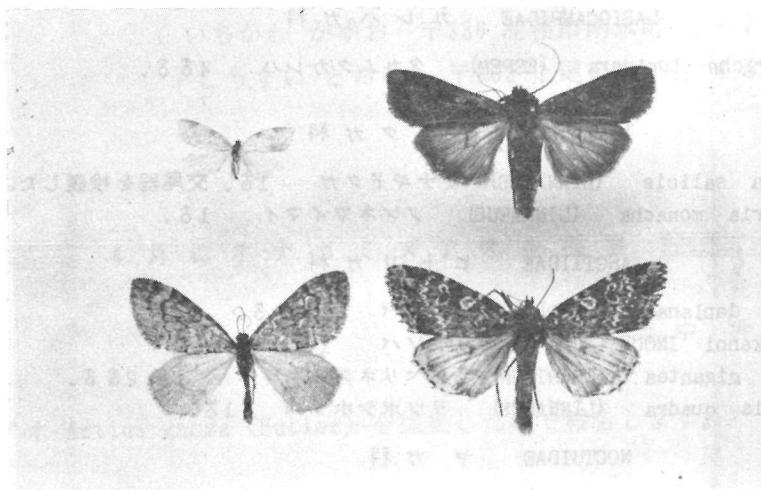
- 1 *Edonia hiranoi* INOUE ヒラノヤマメイガ 1♂. (井上 寛 同定) .
- 2 *Palpita nigropunctalis* (BREMER) マエアカスカシノメイガ 1♀.
- 3 *Orthopygia placens* (BUTLER) ツマキシマメイガ 1♂.
- 4 *Patagoniodes nipponeelluse* (RAGONOT) トビスジマダラメイガ 1♀.
- 5 *Pyla fusca* (HAWORTH) ウスグロマダラメイガ 1♂. 高山帯にみられる蛾である。
- 6 *Cryptoblabes angustipennella* RAGONOT カラマツマダラメイガ 1♀ 1♂.

## THYATIRIDAE トガリバガ科

- 1 *Tetheella fluctuosa* (HÜBNER) ヒトテントカリバ 1♂.
- 2 *Ochropacha duplaris* (LINNAEUS) フタテントカリバ 1♂.

## GEOMETRIDAE シャクガ科

- 1 *Electrophaes corylata* (THUNBERG) キンオビナミシャク 2♂♂.
- 2 *Entephria caesiata* (DENIS and SCHIFFERMÜLLER) ササナミナミシャク 1♀ 8♂♂.  
高山蛾である。
- 3 *Dysstroma citrata* (LINNAEUS) ツマキナカジロナミシャク 1♀.
- 4 *D. albicoma* (INOUE) シロマダラナミシャク 1♀ 4♂♂.
- 5 *Viidaleppia quadrifulta* (PROUT) モトクロオビナミシャク 1♂.



金峰山産の高山蛾

*Clepsis jinboi*

タカネベニハマキ

*Euxoa islandica*

クモマウスグロヤガ

*Viidaleppia taigana*

ソウンクロオビナミシャク

*Anomogyna speciosa*

アルプスヤガ

- 6 *V. taigana* (DJAKONOV) ソウンクロオビナミシャク 2♀♀ 13♂♂。このうちの約半数は、sub sp. *sounkeana* (MATSUMURA) に似て小型で色が暗い個体である。高山蛾である。
- 7 *Venusia cambrica* CURTIS ミヤマナミシャク 35♀♀ 17♂♂。
- 8 *Eupithecia jinboi* INOUE シンボカバナミシャク 1♀ 2♂♂。雌雄の交尾器および雄の腹板を検鏡して同定した。
- 9 *E. lariciata* (FREYER) ホソカバスジナミシャク 3♀♀。外型からは *virgaureata* DOUBLEDAY アザミカバナミシャクかと思われたが、交尾器を検鏡すると2個体とも本種であった。
- 10 *Peizoma saxeum* (WILEMAN) ヒメカバスジナミシャク 5♀♀ 3♂♂。交尾器を検鏡。
- 11 *Chloroclystis excisa* (BUTLER) ソトシロオビナミシャク 2♀♀ 2♂♂。
- 12 *Abraxas grossulariata* (LINNAEUS) スグリシロエダシャク 1♂。
- 13 *Myrteta unio* (OBERTHÜR) ミスジシロエダシャク 1♂。
- 14 *Cabera exanthemata* insulata INOUE ミスジコナフキエダシャク 1♂。
- 15 *Synegia hadassa* (BUTLER) ハグルマエダシャク 1♂。
- 16 *Semiothisa fuscaria* (LEECH) シロオビオエダシャク 4♂♂。
- 17 *Alcis medialbifera* INOUE ヒメナカウスエダシャク 1♀ 2♂♂。
- 18 *A. picata* (BUTLER) シロシタオビエダシャク 2♀♀ 1♂。
- 19 *A. extinctaria* (EVERSMANN) イツスジエダシャク 1♀ 3♂♂。
- 20 *A. jubata* (THUNBERG) コケエダシャク 1♂。
- 21 *Deileptenia ribeata* (CLERCK) マツオオエダシャク 5♀♀ 1♂。
- 22 *Scionomia parasinuosa* INOUE コツマキウスグロエダシャク 1♀。
- 23 *Biston thoracicaria* (OBERTHÜR) フタオレウスグロエダシャク 1♂。

## LASIOCAMPIDAE カレハガ科

- 1 *Casmotricha lunigera* (ESPER) タカムクカレハ 4♂♂.

## LYMANTRIIDAE ドクガ科

- 1 *Leucoma salicis* (LINNAEUS) ヤナギドクガ 1♂。交尾器を検鏡した。
- 2 *Lymantria monacha* (LINNAEUS) ノンネマイマイ 1♂.

## ARCTIIDAE ヒトリガ科

- 1 *Eilema deplana* (ESPER) ムジホソバ 1♀ 1♂.
- 2 *E. okanoi* INOUE ミヤマキベリホソバ 1♂
- 3 *Agylla gigantea* (OBERTHÜR) キベリネズミホソバ 1♀ 2♂♂.
- 4 *Lithosia quadra* (LINNAEUS) ヨツボシホソバ 1♂.

## NOCTUIDAE ヤガ科

- 1 *Panthea coenobita* (ESPER) カラフトゴマケンモン 2♀♀.
- 2 *Euxoa sibirica* (BOISDUVAL) ウスグロヤガ 5♀♀ 1♂.
- 3 *E. islandica* (STAUDINGER) クモマウスグロヤガ 1♀ 1♂。高山帯の蛾である。
- 4 *Ochropleura praecurrents* (STAUDINGER) オオホソアオバヤガ 2♂♂.
- 5 *O. triangularis* MOORE コキマエヤガ 8♀♀ 8♂♂.
- 6 *Hermonassa arenaria* (BUTLER) ホシボシヤガ 1♀.
- 7 *Noctua undosa* (LEECH) ナカグロヤガ 2♀♀ 9 exs.

1987年6月

寄せ蛾記50号

- 8 Diarsia dewitzii (GRAESER) モンキヤガ 3 exs.  
9 D. nipponica OGATA ヤマトウスチャヤガ 1♀ 1♂.  
10 Anomogyna speciosa (HÜBNER) アルプスヤガ 1♀ 1♂. 高山蛾である。  
11 Xestia ditrapezium (DENIS and SCHIFFERMÜLLER) タンポヤガ 2♀ ♀.  
12 Anaplectoides virens (BUTLER) オオアオバヤガ 4 exs.  
13 Polia goliath (OBERTHUR) オオシモフリヨトウ 1♀ 1♂.  
14 Blepharita bathensis (LUTZAU) ミヤマハガタヨトウ 1♂.  
15 Apamea striata HARUTA スジアカヨトウ 1♂.  
16 A. lateritia (HUFNAGEL) オオアカヨトウ 1♀ 5♂ ♂.  
17 Triphaenopsis lucilla BUTLER シロホシキシタヨトウ 1♀.  
18 Athetis pallidipennis SUGI キバネシロテンウスグロヨトウ 1♂.  
19 Chasminodes unipuncta SUGI ヒメキンカ 1♂  
20 Autographa buraeatica (STAUDINGER) ムラサキキンウワバ 1♂.  
21 Hymena proboscidalis (LINNAEUS) フタオビアツバ 1♂.  
22 H. tristalis LEDERER ミツボシアツバ 1♀.  
23 Bomolocha semialbata SUGI ミヤマソトジロアツバ 1♂.

[引用文献]

- 1) 神保一義, 1984. 高山の蛾. 築地書館.
- 2) 杉繁郎, 1982. ヤガ科. 井上寛ほか, 日本産蛾類大図鑑. 講談社.

( いちかわ かずお 〒336 浦和市南本町 2-7-11 )  
( うすい とおる 〒362 上尾市壱丁目 454-3 )

4月にオナガミズアオを採集

森中香織

オナガミズアオ *Actias gnoma* (Butler) を採集したので報告します。

日時: 1987年4月23日 A.M. 9:00

場所: 埼玉県川口市戸塚鉄町 自宅前にて

頭数: 1頭 ♂

前日より6月初旬の気候で、羽化したばかりのものと思われる新鮮な個体であった。

( もりなか かおり 画333 川口市戸塚鉄町 11-8 )

· · · · ·

## 県南平野部で確認した蝶

原 聖樹

· · · · ·

大宮市・上尾市・川越市・比企郡川島町の一部で1986年に確認できた蝶を記録しておく。川越市においてコジャノメ・ウラゴマダラシジミの産地を発見した。

~ ~ ~ ~ ~ ~

### 1. ダイミョウセセリ

1♂● VI-8 大宮市宝来; 1♂ VI-22 川越市大袋; 1令幼虫1ex.(オニドコロ巣内 VII-14 大袋

### 2. ギンイチモンジセセリ

4♂① IV-29 大袋; 1ex. IV-29 川越市大下; 中令幼虫1ex.(ススキ巣内)  
VI-22 宝来; 1♂①1♀②(キツネノマゴ訪花)IX-7 上尾市西貝塚; 2exs.  
IX-7 川越的場; 亜終令(?)幼虫 2exs.(ススキ巣内)XI-2 大袋; 亜終令  
(?)幼虫1ex.(ススキ巣内)XI-2 川越市池辺;

### 3. コチャバネセセリ

1♂ V-22 大袋

### 4. オオチャバネセセリ

亜終令幼虫1ex. 終眠幼虫1ex. 終令幼虫2exs. (アズマネザサ巣内の葉表に頭部を  
葉先に向けて休止) V-22 大袋; 終令幼虫1ex. (ススキ巣内・葉表・基部向)  
VI-8 宝来; 中令幼虫1ex. (アズマネザサ 巣内) 終令幼虫2exs. (アズマネザ  
サ3枚綴巣内・葉表・葉先向、ススキ巣内・葉表・葉先向) 老熟幼虫1ex. (スス  
キ2枚綴巣内・葉先向) VI-8 大袋; 1♂①(アザミ sp. 訪花)終眠幼虫2exs. (ア  
ズマネザサ巣内葉表、基部・葉先向) VII-22 大袋; 終令幼虫1ex. (ススキ巣内・  
葉表・基部向) VII-14 大袋; 1♂1♀①(ニラ訪花)IX-7 西貝塚; 2♂1♀① IX  
-7 的場; 1♂●2♀① IX-7 比企郡川島町出丸中郷; 多数♂♀①②●(キ  
ツネノマゴ・アザミ sp. 訪花)IX-21 宝来; 若令幼虫1ex. (ヨシ若葉中央部の葉  
縁を内部へ巻いた巣内・葉先向) X-12 宝来

### 5. チャバネセセリ

1♂① IX-7 的場; 1♀② IX-21 宝来

## 6. ミヤマチャバネセセリ

1♂① IV-29 大袋；中令幼虫1ex.、亜終令幼虫2exs.（ススキ巣内・基部向）VI-8  
 宝来； 亜終令幼虫1ex.、終令幼虫1ex.（ススキ巣内）VI-22 宝来； 終令幼虫2exs.  
 （ススキ巣内）VII-14 大袋； 2♂①（キツネノマゴ訪花）IX-7 西貝塚； 中令幼  
 虫1ex.（ススキ巣内・基部向）X-12 宝来； 終令幼虫2exs.（ススキ巣内）VIII-14  
 大袋； 終眠幼虫1ex.（ススキ2枚綴り巣内、上方の葉を内側=葉裏側に曲げて葉  
 裏に休止・基部向）XI-2 大袋； 亜終令幼虫1ex.、終令幼虫2exs.（ススキ巣内）XI  
 -2 池辺

## 7. イチモンジセセリ

1♂① VI-8 宝来； 多数♂♀①②（ニラ・キツネノマゴ訪花）IX-7 西貝塚；  
 多数♂♀①②（イタドリ訪花）IX-7 的場； 多数♂♀①②●（キツネノマゴ・ア  
 ザミ sp.訪花）IX-21 宝来

## 8. ジャコウアゲハ

1♀●-1・1・4卵（ウマノスズクサ葉裏）若令幼虫2exs.、中令幼虫1ex.、亜終令幼虫  
 2exs.、終眠幼虫1ex.、終令幼虫5exs.（ウマノスズクサ葉表）VI-22 大袋； 1♀①  
 1♀② IX-7 的場

## 9. キアゲハ

1♀● VI-22 大袋； 1♀ VII-14 大袋； 1♂② IX-7 的場； 1♂1♀● IX  
 -21 宝来

## 10. アゲハ

1ex. IV-29 大袋； 1ex. V-22 大袋； 1♂1♀① VII-14 大袋； 1♀● IX-  
 7 西貝塚； 1♂1♀● IX-7 的場

## 11. キチョウ

♀①+♂①→（交尾）VI-8 宝来； 1♂ IX-7 西貝塚； 1♂①1♂②1♀ IX-  
 7 的場； 1♂1♀ IX-7 出丸中郷

## 12. モンキチョウ

1♂ IX-7 的場； 1♂1♀① IX-21 宝来

## 13. ツマキチョウ

2♂① IV-29 大袋

## 14. モンシロチョウ

2♂2♀②（セイヨウタンポポ訪花）IV-29 大袋； 2♂ VI-8 宝来； 2♂①（マ  
 マコノシリヌグイ訪花）3♂1♀ IX-7 的場； 3♂（地表で吸水）1♀① IX-7  
 出丸中郷

## 15. スジグロシロチョウ

2♂1♀ IV-29 大袋； 1♂①（コガネグモに捕食される）1♂① IX-7 出丸中郷

## 16. ウラゴマダラシジミ

1♀① 4exs. VI-22 大袋

## 17. ミズイロオナガシジミ

1ex. ① VI-22 大袋

## 18. ミドリシジミ

老熟幼虫1ex. (ハンノキ根際の枯葉中を歩行)蛹2exs. (ハンノキ根際のハンノキ落葉上。根際は湿っており、カタツムリ・ナメクジ・ゲジゲジ・アリなど多。マイマイカブリ1ex. もいた) VI-8 宝来

## 19. ベニシジミ

多数♂♀①②● IV-29 大袋; 2♂②2♀① VI-8 宝来; 1♂●1♀②2exs. V-22 大袋; 2♂②2♀① VI-8 宝来; 多数♂♀① VI-22 大袋; 1♂① 1♂● IX-7 西貝塚; 1♂1ex. IX-7 出丸中郷

## 20. ゴイシシジミ

1♂1♀① V-22 大袋

## 21. ウラナミシジミ

1卵(ササゲ花蕾)IX-21 宝来

## 22. ヤマトシジミ

1♂1♀① VII-14 大袋; 1♂①(ニラ訪花)IX-7 西貝塚; 2♂① IX-7 的場; 2♂1♀① IX-7 出丸中郷; 1♂2♀ IX-21 宝来

## 23. ルリシジミ

1♂ VI-22 大袋

## 24. ツバメシジミ

2♀①(カラスノエンドウ訪花)1♀② IV-29 大袋; 1♂● V-22 大袋; 1♂① IX-7 的場

## 25. イチモンジチョウ

1♀① VI-8 宝来

## 26. アサマイチモンジ

1♂1♀①(イボタ訪花)VI-8 宝来; 1♂● VI-22 大袋; 1♀① IX-7 的場

## 27. コミスジ

2♀ V-22 大袋; 1ex. VI-8 宝来; 1♂2♀②-2令幼虫1ex. [14:00(晴れ), ヤブマメの葉の主脈を残して下半部を両側から食い取ってしおらせた葉表(まるまっている)に、頭部を上方に向けて休止] VII-14 大袋; 1ex. IX-7 的場; 2exs. IX-7 出丸中郷

## 28. キタテハ

3♂ IV-29 大袋; 1♀① VI-22 大袋; 1♂①(秋型、イタドリ訪花)1♀①1♀

◎1ex. IV-7 的場; 1♂① IX-7 出丸中郷; 1ex. IX-21 宝来

## 29. ヒオドシチョウ

1ex. ① VII-22 大袋

## 30. ヒメアカタテハ

1♂② IX-7 的場; 1ex. ①(アカツメクサ訪花)IX-7 出丸中郷

## 31. アカタテハ

終令幼虫1ex. 蛹 3exs. (いずれもカラムシの葉1枚を内側へ綴り合わせた巣内)

X-12 宝来

## 32. ゴマダラチョウ

1ex. VII-22 大袋; 1ex. IX-7 出丸中郷

## 33. ヒメウラナミジャノメ

1♂● V-22 大袋; 1♀● VI-8 宝来; 1♂1♀② VI-22 大袋; 1♀①

1ex. VII-14 大袋; 1♂②2♀①(ニラ訪花)IX-7 西貝塚; 多数♂① IX-7  
的場; 多数♂♀ IX-21 宝来

## 34. ヒカゲチョウ

2♂① VII-22 大袋; 1♂② IX-7 出丸中郷

## 35. サトキマダラヒカゲ

1♂①(クヌギ樹液)VII-14 大袋; 1♂② IX-7 出丸中郷

## 36. ヒメジャノメ

1♂2♀① VI-8 大袋; 1♂●1♀② VI-22 大袋; 1ex. IX-7 的場; 3♂

2♀① IX-7 出丸中郷; 2♂2♀① IX-21 宝来; 1♀ 1ex. X-12 宝来

## 38. コジャノメ

多数♂♀①② V-22 大袋; 1♀● VI-22 大袋

(はら せいき 〒220-02 神奈川県津久井郡津久井町中野 617 北相寮)

.....

## 蝶に関する海外の文献の紹介

石澤 直也

.....

アマチュアにとって虫との付き合いは、採集から始まって、形態、分布、生態へと進むのが普通であるが、ややもすると形態と分布だけが重点になりやすくなる。従って一部専門家には知られていることが、一般には紹介されない今までいることが多い様に見受けられる。特に昆虫の生理学の分野については、応用昆虫のように害虫駆除や養蚕といった観点からの研究は我が国でも古くからなされていたが、単に生理を解明しよう、あるいは生態や行動、形態と生理との関係から研究については極最近になってからである。小生は一昨年、Bernd Heinrichの『ヤナギランの花咲く野辺で』を読んで以来、昆虫の体温調節に興味を抱き、その方面的文献を探してみた。そこで気付いた事は、我国では体温調節やそれに関連した分野の研究は殆どなされていず、海外では遙か以前からなされていたという事だった。一例をあげると、「蝶の翅脈に血液が流れているということ」が我国では一般には知られていないという事で、色々の人々に聞いても、中には昆虫の生理学の分野で博士号をとった若い人でも知らない場合があった。そんな訳で今回、それらの海外の文献の中から3編ほどSummaryを紹介し、諸兄姉のご参考に供したい。

最初に W.B.Watt (現在はスタンフォード大学) の黒化型の地理的変異と体温調節を論じたもの、次に B.Heinrich (現在はバーモント大学) の熱帯地域の蝶の体温調節、終わりに L.T.Wasserthal (ルール大学) の蝶の翅脈への血液の流れの研究の順序で紹介する。

- I. W.B.Watt (1968) Adaptive Significance of Pigment Polymorphisms in *Colias* Butterflies, I. Variation of Melanin Pigment in Relation to Thermoregulation. *Evolution* Vol.22.

モンキチョウ属は、寒い気候の所では後翅裏面が黒化しているが、これは寒い環境では太陽エネルギーを熱源として吸収する効果を高め、ひいてはより活動性を増し、生殖効果を上げているのではないかという仮説のもとに調査を行った。蝶の体温は体内にサーミスタ針を挿して測った。その結果は、

- (1) 体温が34~35°C以下では、太陽光線に対し、後翅裏面を直角にしてエネルギー吸収を最大にしている。留意することは、胸部と腹部は翅の一番黒化しているところに直接当たっていることである。37~38°C以上の体温では太陽光線に平行し

て受光面積を最小にして、日陰を求める。

- (2) モンキチョウ属共通の積極的活動温度 voluntary activity range(VAR)の下限は28~30°Cで、上限は40°C~42°Cで、寒い地域の個体群でもVARを下げて適応してはいらず、最適活動温度 optimum activity range(OAR)は35~38°Cと推定される。
- (3) モンキチョウには代謝による体温の上昇や、蒸散による冷却等の機構は見出せなかった。
- (4) 明色型と黒化型と並べて直射日光に当てた場合、黒化型の方が速く温められ、より高い安定した体温を獲得した。この差異は、光線の方向や蝶のサイズが違う場合、あるいは死んだ個体でも同じであり、代謝物の影響ではない。明色型も黒化型も冷えるのは同じであるので、加温の差異は、黒化型の方が太陽エネルギーの吸収が大きいという事に起因していると思われる。

反射分光光度計で可視域、近赤外域、赤外域を調査した結果でも、黒化型が明色型に対し、エネルギー吸収の有利性を持ち、これはサーミスタによる調査と一致した。

寒い高山や北方の生息地域では、黒化型のモンキチョウは、太陽エネルギーの熱吸収の有利性によって、食餌や、交尾、産卵活動が増加して、明色型より増殖の点で成功していると思われる。逆も真なりで、暖かい低地では明色型は黒化型より高温に強く、黒化型は活動が弱められている。他にモンキチョウの翅の裏面の色に起因する種々の選択力を測る手段が論じられている。

【訳者注】：この論文に関係した部分は、「日経サイエンス」1985年10月号の J.G. キングソルバーの『チョウの工学』の中で触れられている。

## 2. B.Heinrich(1972) Thoracic Temperatures of Butterflies in the Field Near the Equator. Comparative Biochemistry and Physiology Vol.43A

- (1) ニューギニア低地に生息する4種の蝶 (*Papilio aegeus*, *Taenaris myops*, *Precis villida*, *Mycalesis elia*) の日向と日陰での行動パターンと胸部体温を調べたところ、うち *Precis villida* と *Mycalesis elia* の2種には体温調節の仕組みが認められた。
  - (2) 死んだ個体や翅を固定した蝶では、風がないとき胸部体温は、直射日光の下ではおよそ1分位で44~52°Cに達した。それにもかかわらず、気温が33°Cさえ、*P.villida* は日向に留まり、その時は胸部体温は43°C以下だった。
  - (3) 明色や暗色や黒色の蝶は、全て近赤外線の反射率が高かった。
  - (4) 翅の役割は体温調節とエネルギー収支に関連して論じられている。
- 蝶や他の昆虫では、代謝率つまり熱生産率と翼面荷重とは関係があるといわれて

いる。(Dorsett, 1962, Weis-Fogh, 1964)このことは *P. aegeus* が活発な飛翔をするにもかかわらず、胸部体温と気温との差が小さいことの説明になると思われる。つまり *P. aegeus* は体のわりには大きな翅を持っており、それによって滑空できエネルギー消費を節約できるからと思われる。横に拡げても熱吸収は少なく、気温25°C以下でもウォームアップなしに飛び立つことができる。

【訳者注】: Wattとは反対の場合の研究であり、温帯域で適応できる例としては、アゲハチョウ、キアゲハやクロアゲハ等の夏型であろう。

また翼面荷重の問題ではアサギマダラが該当する。高山地域にも積極的に飛来し、気温が低くても飛び立てる能力については体温調節の観点から研究してみる価値はあるといえる。

3. L.T. Wasserthal (1983) Haemolymph flows in the wings of Pierid butterflies visualized by vital staining (insecta, lepidoptera) *Zoology* 103

*Pieris rapae*, *P. brassicae*, *Gonepteryx rhamni* の腹部に蛍光テトラサイクリンを入れ、一定間隔で紫外線を照射して静止中の翅の着色された血液の流れを写真に撮った。

翅には循環経路はなく、一本の翅脈を通じてではなく、基部からそれぞれの翅脈で血液の着色が認められた。自由に休ませておいた蝶では殆どの翅脈は20分で着色した。着色パターンによって、翅脈には血液の流入が認められた。膜部への血液の流入は、適用後1時間経過してから始まり、*Pieris* では全体に拡がるまでには12時間かかった。膜部へは液体の拡散によって、特に湿度の低いとき水分の蒸散の代替として供給されている。このメカニズムは、水分の欠乏、特に塩分の欠乏に関係しており、蝶の吸水行動はこれらの不足分を補給するのに役立つと思われる。仮説としては、翅脈からの水分の蒸散の代替としての血液は、特に昼光性で日光浴をする鱗翅目の種においては、翅の膜部の毒やフェロモンの蓄積のための事前適応と思われる。

羽化後5日の夏型 *Gonepteryx* の翅脈では、羽化後4~5ヶ月で越冬前のものよりも強く着色される。この種では翅脈から膜への血液の移動は、休眠中の水分の保持のために減少する。

【訳者注】: 昆虫の翅脈の血液の流れについては、Wigglesworth が The Principles of Insect Physiology にまとめており、翅の付け根にある拍動器官 (pulsatile organs) によって翅脈 (普通翅脈は、気管、血管、神経も含んだものを指すが、ここでは気管と翅脈との間の壁と断っている、従って気管 - trachea - ではない) の中に送り込まれ、血液は翅の健全性を維持するのに役立っており、流れが止まったものでは破損しやすくなると書いている。写真では蝶のものでは Ludicke が1952年に、トンボでは Munchberg が1966年に硫酸ソーダの放射性同位元素を使って撮影したものを発表している。

1964年には Jones が The Physiology of Insecta, Vol. III. Academic Press, New York の The circulatory system of insects で翅脈に流れる血圧を計算している。また、訳者も1986年9月15日にウスバキトンボとアキアカネの前翅を切断した時、血液の零や、切断面での液の膜面の反射を確認している。

国内で発行された文献で、翅脈の血液に関して触れているものは、培風館「昆虫の生理学」石井象二郎著の『循環系と血液』116頁に Wigglesworth からの引用の形で、東海大学出版会「日本の昆虫地理学」の中の『モンシロチョウ属の季節的多型』でこの Wasserthal の論文を紹介しており、他には文一総合出版「おもしろい昆虫学の話」プラビリシコフ著の128頁で、最も新しいものでは、「インセクタリウム」1987 Vol. 24-3 『こどものフィールドノート』で長谷川洋がモンシロチョウの翅脈の中に血液が流れていると書いている。

以上、訳者の力不足の所が多々あり、判り辛いところもあると思われる所以、原文に当たりたい人は上記3件の論文については、碓井氏のところ及び訳者のところへ照会されたい。他の体温調節に関する文献についても折りをみて紹介したい。

( いしざわ なおや 画359 所沢市山口 1644-15 )

### 「オオムラサキの森」の現況

杉田 正之

嵐山町で進められている「オオムラサキの森づくり」は行政と住民とが協力してオオムラサキの保護活動を続けている珍しいケースだという事で、さる2月27日、東京で開催された国連環境特別委員会最終日のシンポジウムの席で活動報告をする機会が与えられ、我々と一緒に活動している榎原弥佳さん(大学生)が代表して報告を行いました。

なお、1月より森の整備工事も始まり、3月末に完了しました。整備は背丈程も伸びたササの刈り取り(一部抜根)などでした。工事の施工管理は「オオムラサキの森づくり協議会」が受け持ち、ササ以外の植物を刈り取らぬよう注意深く進めました。

森は自由に歩き回り観察ができる観察林と、チョウの食樹(草)が植栽されてチョウ(幼虫)と食樹(草)との関係を知る事のできる展示見本林、それに実験林の3つの林で構成されています。また、今年度中には活動センターが建設される事になっています。

( すぎた まさゆき 画355-02 比企郡嵐山町菅谷 87-3 )

.....

## 越辺川（越生町）のトンボ

新井 裕

越辺川は埼玉県入間郡越生町の笛ヶ付近を水源とする全長約30Kmの荒川水系の川である。

筆者は水源より約5.5Km下流の梅林（越生町大字堂山）付近において、幼虫を中心としたトンボの生息状況を調査したので、以下その結果を報告する。

### 調査場所と方法

調査地とした梅林付近は、川幅が5～6mあり、上流部から中流部へと移行する状態の場所で、水しぶきをあげるような早瀬がある一方で、さざ波程度の緩やかな流れの場所もある。川底の状態は、礫、砂礫、砂泥等、場所により様々で、淵の部分では落葉がたまっている。水深は概して浅く、対岸へ歩いて渡れる程度の所が多いが、2m程度の深みもある。水は比較的澄んでいるものの、所々で雑排水が流入しているため、その付近のよどみは、かなり汚染している。

梅園の対岸は「梅園神社」の社叢となっており、スダジイを中心とした原生林が斜面状に形成されている。

幼虫の調査は55×23cmの角型のザル（ザルの目は4mm<sup>2</sup>）を用いて、約1時間にわたり、約100mの範囲を採集し、得られた幼虫を種類別に集計する方法をとった。なお採集した幼虫は一部の個体を除いて、大きさと種類を記録後、元の川に放した。

調査は、1985年4月29日、6月11日、6月27日、7月14日、8月28日、1986年8月11日、9月28日の計7回行い、いずれも、水深が1.5mを越えるような深い場所での調査は行わなかった。

### 調査結果

今回の調査で確認できた幼虫は、表1に示した、5科14種であった。このうち、最も個体数が多かったのはダビドサナエで、常に多数の幼虫の生息を認めた。本種は成虫も多く、未熟個体、成熟個体共にみられ、産卵も観察できた。

アオサナエは一般に稀種と考えられているが、幼虫は比較的多く見られた。本種の羽化期である6月27日の調査では、終齢の1齢前のものから、5齢前のものと思われる

表1. 幼虫の調査結果

調査 年月日	1985年						1986年		
	4/29	6/11	6/27	7/14	8/28	8/11	9/28		
種名＼幼虫の齢期	若	中	終	若	中	終	若	中	終
カワトンボ	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ハグロトンボ	0	0	0	12	3	0	3	1	0
ミヤマカワトンボ	0	0	7	0	0	1	0	0	0
ダビドサナエ	+ +	多	「多」	7	「152」	0	「58」	0	「多」
オジロサナエ	0	0	0	0	1	16	0	1	26
ヒメサナエ	0	2	7	0	0	33	0	0	1
アオサナエ	0	0	0	1	12	0	0	16	0
コオニヤンマ	0	0	0	7	7	3	1	0	12
ヤマサナエ	0	0	0	0	1	0	0	0	0
ミヤマサナエ	0	0	0	0	1	5	0	1	20
オニヤンマ	0	0	0	0	0	2	0	0	0
コシボソヤンマ	0	0	0	0	0	1	0	0	0
ミルンヤンマ	0	0	0	0	0	0	0	0	0
コヤマトンボ	0	0	0	0	5	0	0	3	0
							18	1	0
							2	3	0
							0	0	+
							+	0	+

注) +; 生息を認めたが頭数調査は行わなかった。

多; 50頭以上の生息を認めた。

ものまで、段階的に異なるステージの幼虫が認められた。この終齢一つ前の幼虫は、秋に終齢をなって越冬し、晩春に羽化するものと考えられる。また、成熟成虫は7月中旬に少なくなかった。

ヒメサナエは6月上旬の羽化期には終齢幼虫と共に、多数の羽化殻がみられ、調査地点で盛んに羽化することがわかったが、その他の時期には幼虫は少なく、特に若齢幼虫は全く見られなかった。成虫も羽化直後のテネラルな個体は見られたものの、成熟個体は全く観察されなかった。成熟した成虫は水源に近い黒山三滝付近には見られたので、本種は上流で産卵が行われ、成長した幼虫が流下して中流部で羽化するのではないかと推察される。

なお、本種は終齢の一齢前で越冬し、春に脱皮して終齢になったのち、その年の初夏に羽化するものと思われる。

オジロサナエもヒメサナエ同様、羽化時期には多数の終齢幼虫や羽化殻が見られたにもかかわらず、成熟成虫の姿は全く見られなかった。本種も成熟成虫は黒山三滝付近ではみかけたので、上流で産卵が行われ、幼虫が下流で羽化する傾向があるものと思われる。

一方、オナガサナエは、7～8月に成熟成虫が少なくなく、産卵も見られたが、幼虫は全く発見できなかった。その理由は不明であるが、幼虫はより下流に流れてしまうのか、あるいは、今回調査を行わなかった1.5m以上の深みに生息しているかのいずれかであろう。本種は羽化殻が多数得られるような他の河川においても、羽化時期以外の季節に幼虫が採集されることは極めて稀であるので、幼虫はかなり深い場所に生息している可能性が強い。

以上のように、同地点に生息するトンボ幼虫の種類構成は知ることができたが、一部の種では幼虫の季節的な移動が示唆されたので、今後はその点を中心に調査を継続したいと考えている。

(あらい ゆたか 画369-12 大里郡寄居町末野 1233-2)

· · · · · · · ·

## 埼玉県日高町でヤマトヒバリを採集

西村 正賢

筆者は1986年10月25日、埼玉県入間郡日高町中組付近でヤマトヒバリ *Homoeoxiphia lycoides* を1♂, 2♀採集したので報告したい。

採集した個体はコナラ・クヌギなどを主体とした雑木林の林床のササ類やイボタなどをスィーピングして得たものである。埼玉県の直翅類の報告は山崎柄根(1978)、松村昌次(1981)などによるものがあるが、それらのなかでは本種は未発見である。直翅類に関する記録が少ないとから分布基礎資料の一助となればと思い報告した次第である。

### [参考文献]

松村昌次, 1981. 寄居町の直翅類. 寄居町の自然 動物編:143-148

巣瀬 司, 1983. アオマツムシの古い記録. 寄せ蛾記, (39):460.

寺山 守, 1980. 埼玉県下におけるアリヅカコオロギの採集例および生態的断片  
寄せ蛾記, (28):230-232

山崎柄根, 1978. 埼玉の直翅類. 埼玉県動物誌:383-401.

(にしむら まさとし 〒243 厚木市緑ヶ丘 4-2-216)

.....

## 埼玉県産ハネカクシ科分布資料〔2〕

小田 博

.....

配列その他記載方法は前回と同様であるが、属に変更のあった種はその旨注記した。報告に先立ち、種々ご教示をいただいた柴田泰利氏に深謝申し上げます。また、貴重な標本をご恵与下さった碓井徹、佐々木和男、玉木長寿の各氏に心からお礼申し上げます。

### 《ハネカクシ亜科 STAPHYLININAE》

59. \*アカバヒメホソハネカクシ *Neobisnius pumilus* (SHARP, 1874)  
【大里郡寄居町】鉢形・荒川河原, 2♂, 13. x. 1982 [石下].  
【入間郡大井町】大井・弁天の森, 1♂, 31. vii. 1983 [街灯].  
【秩父郡荒川村】日野字下日野・荒川河原, 1♀, 18. ix. 1983 [石下].
60. \*ツヤヒメホソハネカクシ *Erichsonius japonicus* (CAMERON, 1933)  
【秩父市】橋立渓谷, 1♂, 29. iv. 1985 [渓流際石下].
61. \*チャイロキヌガシラハネカクシ *Philonthus azabuensis* DVOŘÁK, 1958  
【入間郡大井町】大井字東原, 1♂, 2. i. 1986 [腐植質].  
◆参照文献: DVOŘÁK, 1958, Mushi, 32(15):137.
62. \*ドウバネコガシラハネカクシ *Philonthus cunctator* SHARP, 1889  
【飯能市】天覧山, 1♂, 21. x. 1986 [湿地].
63. \*ルリコガシラハネカクシ *Philonthus cyanipennis* (FABRICIUS, 1792)  
【秩父郡大滝村】三峰山, 2♀, 28. viii. 1983 [朽木下].
64. \*チビカクコガシラハネカクシ *Philonthus discoideus* RAVENHORST, 1802  
【入間郡大井町】大井字東原, 1♂, 6. x. 1981 [腐植質].
65. \*フタイロコガシラハネカクシ *Philonthus kobensis* SHARP, 1874  
【秩父郡大滝村】入山, 1♂, 25. vii. ~ 5. viii. 1980 [腐肉採集; 佐々木和男氏採集].
66. \*オオドウガネコガシラハネカクシ *Philonthus lewisius* SHARP, 1874  
【入間郡大井町】苗間, 1♂, 30. viii. 1980 [街灯]; 1♀, 7. ix. 1980 [街灯]; 1♂, 20. ix. 1980 [街灯]; 1♀, 20. viii. 1981 [街灯]; 1♂, 2♀, 22. ix. 1981 [街灯]; 1♀, 23. ix. 1981 [街灯]; 4♂, 4♀, 14. viii. 1982 [街灯]; 大井・弁天の森, 1♀, 21. ix. 1981 [枯草下]; 1♀, 12. x. 1981 [腐植質]; 1♂, 15. viii. 1982 [街灯]; 3♀, 18. viii. 1982 [街灯]; 1♂, 2♀, 2. vii. 1983 [街灯].

- 【浦和市】秋ヶ瀬公園, 1♀, 23. ix. 1981 [湿地].
67. \*アカヒラタコガシラハネカクシ *Philonthus macrocephalus* SHARP, 1889  
【秩父郡横瀬町】二子山, 1♂ 2♀, 20. viii. 1986 [倒木樹皮下]; 8♂ 19♀, 23. ix. 1986 [倒木樹皮下].
68. \*キアシチビコガシラハネカクシ *Philonthus numata* DVOŘÁK, 1958  
【入間郡大井町】苗間, 3♂ 1♀, 20. viii. 1981 [街灯]; 大井・弁天の森, 2♂, 2. vii. 1983 [街灯].  
【浦和市】秋ヶ瀬公園, 1♂, 23. ix. 1981 [湿地].  
【大里郡寄居町】鉢形・荒川河原, 3♂, 13. x. 1982 [石下].  
◆参照文献: DVOŘÁK, 1958, Mushi, 32(15):139.
69. カクコガシラハネカクシ *Philonthus rectangulus* SHARP, 1874  
【富士見市】上沢3丁目, 1♀, 18. iv. 1981 [腐植質]; 1♀, 27. iii. 1984 [石下; 小田晶採集].  
【入間郡大井町】大井・弁天の森, 2♀, 22. ix. 1981 [腐植質]; 3♂, 12. x. 1981; 2♂, 19. x. 1981 [腐植質]; 1♂ 1♀, 15. viii. 1982 [街灯]; 大井字東原, 1♂, 4. xi. 1986 [腐植質].  
【入間郡三芳町】上富・多福寺付近, 1♀, 23. xi. 1986 [腐植質].
70. \*キヌコガシラハネカクシ *Philonthus sericans* SHARP, 1874  
【入間郡大井町】大井・弁天の森, 1♂, 9. ix. 1981 [街灯]; 2♀, 22. x. 1981 [腐植質]; 2♀, 19. x. 1981 [腐植質]; 1♂, 15. viii. 1982 [街灯]; 2♂, 30. viii. 1982 [街灯]; 1♂, 31. viii. 1982 [街灯]; 1♂, 23. x. 1982 [腐植質]; 2♂, 28. vii. 1983 [街灯].  
【入間郡三芳町】上富・多福寺付近, 1♂, 23. xi. 1986 [腐植質].  
【富士見市】上沢3丁目, 2♂, 28. vii. 1982 [腐植質].  
【大里郡寄居町】鉢形・荒川河原, 1♂, 13. x. 1982 [石下].
71. \*ヘリアカバコガシラハネカクシ *Philonthus solidus* SHARP, 1874  
【入間郡大井町】大井・弁天の森, 1♂, 21. ix. 1981 [枯草下]; 5♂ 1♀, 12. x. 1981 [腐植質]; 2♂ 1♀, 19. x. 1981 [腐植質]; 2♂, 2. viii. 1983 [樹液].  
【入間郡三芳町】上富・多福寺付近, 2♂ 3♀, 17. x. 1983 [腐植質].  
【富士見市】上沢3丁目, 1♂, 28. vii. 1982 [腐植質]; 1♂ 1♀, 24. x. 1983 [糞]; 誠訪1丁目, 2♂ 3♀, 11. xi. 1986 [腐植質].  
【大里郡寄居町】鉢形・荒川河原, 2♂ 4♀, 13. x. 1982 [糞の死体].
72. \*ヒラタコガシラハネカクシ *Philonthus spadiceus* (SHARP, 1889)  
【秩父市】橋立渓谷, 1♀, 12. v. 1984 [石下].  
◆本種は Gabrius 属から本属に移された (『原色日本甲虫図鑑(II)』).
73. オオアカバコガシラハネカクシ *Philonthus spinipes* SHARP, 1874  
【入間郡大井町】大井・弁天の森, 1♀, 19. x. 1981 [腐植質]; 字東原, 1♂, 28. viii. 1982 [腐植質]; 1♂, 30. viii. 1982 [腐植質]; 1♂ 1♀, 5. ix. 1982 [腐植質]; 1♀, 2. i. 1986 [腐植質].

- 【入間郡三芳町】上富・多福寺付近, 1♀, 17. x. 1983 [腐植質]; 1♂, 23. xi. 1986 [腐植質].
74. \*ヒメホソコガシラハネカクシ *Philonthus wuesthoffi* BERNHAUER, 1938  
 【入間郡大井町】大井・弁天の森, 2♂, 22. ix. 1981 [腐植質]; 1♂ 1♀, 12. x. 1981 [腐植質]; 2♂, 15.-viii. 1982 [街灯]; 2♂ 1♀, 30. viii. 1982 [街灯]; 1♂, 28. viii. 1983 [街灯]; 大井字東原, 1♂, 28. viii. 1982 [腐植質]; 1♂ 4♀, 9. xii. 1985 [腐植質]; 1♂ 1♀, 4. xi. 1986 [腐植質].  
 【秩父郡荒川村】白久字青梅, 1♂, 5. viii. 1984 [街灯]; 荒川河原, 1♂, 7. viii. 1984 [腐敗動植物質].  
 【秩父郡大滝村】川又, 1♂, 24. viii. 1985 [灯火採集].
75. \*トゲツメコガシラハネカクシ *Philonthus nakanei* K. SAWADA, 1965  
 【秩父郡大滝村】入山, 2♂ 3♀, 25. vii ~ 5. viii. 1980; 滑沢, 1♀, 4. viii. 1981 [いずれも腐肉採集; 佐々木和男氏採集].  
 ◆参照文献: SAWADA, K., 1965, Ent. Rev. Japan, 18(1):14-15; 柴田泰利, 1982, 甲虫ニュース, (55):1-2 [本種は *Onycophilonthus* 亜属に属し, 前跗節末端節下面に黒色棘毛がある].
76. \*タテミゾコガシラハネカクシ *Gabronthus sulcifrons* SHARP, 1889  
 【富士見市】上沢3丁目, 2♀, 28. vii. 1982 [腐植質].  
 【入間郡三芳町】上富・多福寺付近, 1♂, 17. x. 1983 [腐植質].  
 ◆参照文献: 柴田泰利, 1984, 大田区の昆虫 (大田区自然環境保全基礎調査報告書), p.76-77 [頭部前縁中央に顯著な縱溝がある].
77. \*ホソチャバネコガシラハネカクシ *Rabigus brunnicollis* (HOCHHUTH, 1851)  
 【富士見市】上沢3丁目, 1♂, 15. iii. 1981; 2♂, 28. vii. 1982 [腐植質] 2♂ 5♀, 28. viii. 1982 [腐植質]; 3♂ 2♀, 1. x. 1982 [畑地].  
 【入間郡大井町】大井字東原, 2♀, 13. ix. 1981 [枯草下]; 1♂ 2♀, 12. v. 1983 [腐植質].  
 【入間郡名栗村】下名栗・湯基入林道, 1♂, 28. iii. 1982 [石下; 小田晶採集].
78. \*シャープホソコガシラハネカクシ *Gabrius sharpianus* (CAMERON, 1930)  
 【秩父郡荒川村】白久, 1♂ 2♀, 9. v. 1983 [溪流際落葉下].
79. \*コゲチャホソコガシラハネカクシ *Gabrius unzenensis* (BERNHAUER, 1938)  
 【秩父郡荒川村】熊倉山, 1♂ 1♀, 5. v. 1986 [朽木内]; 2♂, 28. vii. 1986 [溪流際岩石の苔の下].
80. \**Gabrius kobayashii* METANA, 1984  
 【秩父郡横瀬町】二子山, 1♂ 1♀, 4. vii. 1983 [溪流際落葉下].  
 ◆参照文献: METANA, 1984, Pan-Pacif. Ent., 60(2):128-130.
81. ツマグロアカバハネカクシ *Hesperus tiro* (SHARP, 1874)  
 【秩父市】橋立渓谷, 1♀, 12. v. 1984 [溪流際石下].

【秩父郡両神村】昇竜ノ滝付近, 2♀, 22. viii. 1985 [勿木の腐果実].  
 【秩父郡横瀬町】二子山, 1♀, 20. viii. 1986 [勿木の腐果実].

82. \*ドウガネハネカクシ *Staphylinus circumcinctus* BERNHAUER, 1914

【秩父郡荒川村】熊倉山, 1♂, 20. vi. 1982 [小田晶採集].

【富士見市】上沢3丁目, 1♀, 5. v. 1984 [小田久美子採集].

83. \*クロガネハネカクシ *Staphylinus inornatus* SHARP, 1874

【秩父郡荒川村】白久字青梅, 1♀, 6. viii. 1984 [腐敗動物質].

84. アカバハネカクシ *Staphylinus paganus* SHARP, 1874

【富士見市】上沢3丁目, 1♂, 12. iv. 1981 [腐植質: 小田晶採集]; 1♀, 17. iv. 1981 [腐植質: 小田晶採集]; 2♂ 1♀, 24. x. 1983 [糞].

【入間郡三芳町】北永井字境松, 2♀, 19. x. 1981 [糞]; 上富・多福寺付近, 1♀, 6. v. 1984 [腐植質]; 1♂, 23. xi. 1986 [腐植質].

【入間郡毛呂山町】前久保, 1♂, 12. vi. 1975 [玉木長寿氏採集].

【所沢市】中富, 1♀, 8. x. 1984 [腐植質].

【秩父郡大滝村】入山, 1♂, 25. vii.- 5. viii. 1980 [腐肉採集: 佐々木和男氏採集].

85. \*サビイロモンキハネカクシ *Ocyphus (Protocypus) dorsalis* SHARP, 1889

【秩父郡大滝村】入山, 1♂, 25. vii.- 5. viii. 1980 [腐肉採集: 佐々木和男氏採集]; 將監峠, 2♂, 2. viii. 1985 [腐肉採集: 碓井徹氏採集].

86. \*チビドウガネハネカクシ *Ocyphus (Aulacocypus) parvulus* SHARP, 1874

【秩父郡大滝村】三峰山, 1♂, 16. viii. 1984.

87. クロサビイロハネカクシ *Ocyphus (Xanthocypus) lewisi* SHARP, 1889

【秩父郡大滝村】入山, 1♂, 25. vii.- 5. viii. 1980; 滑沢, 1♂, 29. vii.- 4. viii. 1981 [いずれも腐肉採集: 佐々木和男氏採集].

【富士見市】上沢3丁目, 1♀, 12. v. 1983 [落葉下].

【狭山市】智光山公園, 1♂, 1. ii. 1987 [落葉下].

88. キンボシハネカクシ *Ocyphus (Xanthocypus) weisei* HAROLD, 1877

【秩父郡横瀬町】芦ヶ久保, 1♂, 4. vii. 1983.

【入間郡毛呂山町】前久保, 1♀, 25. vi. 1977 [玉木長寿氏採集].

89. \*ホソサビイロモンキハネカクシ *Miobdelus brevipennis* SHARP, 1889

【秩父郡大滝村】將監峠, 1♀, 2. viii. 1985 [腐肉採集: 碓井徹氏採集].

90. \*サビハネカクシ *Ontholestes gracillus* SHARP, 1874

【秩父郡大滝村】入山, 1♂, 25. vii.- 5. viii. 1980 [腐肉採集: 佐々木和男氏採集]; 三峰山, 1♀, 1. vii. 1984 [糞]; 川又, 3♂ 1♀, 24. viii. 1985 [腐植質・灯火採集].

【秩父郡荒川村】白久・鹿の湯付近, 1♀, 9. viii. 1982 [小田晶採集].

【秩父郡横瀬町】二子山, 1♂, 28. viii. 1984 [小田晶採集].

【入間郡越生町】黒山三滝付近, 1♀, 31. viii. 1984 [糞].

91. ハイイロハネカクシ *Eucibdelus japonicus* SHARP, 1874  
 【秩父郡横瀬町】二子山, 1♂ 2♀, 13. vi. 1982 [叩き網採集].  
 【秩父郡大滝村】川又, 1♂, 26. vii. 1983 [街灯]; 2♂, 24. viii.  
 1985 [灯火採集]; 矢竹沢, 1♂, 30. vii. 1984 [灯火採集];
92. \*オオアカバハネカクシ *Agelosus carinatus* (SHARP, 1874)  
 【秩父郡大滝村】入川林道, 1♀, 26. vii. 1983 [小田晶採集].
93. ムネビロハネカクシ *Algon grandicollis* SHARP, 1874  
 【富士見市】富士見市上沢3丁目, 1♀, 28. v. 1981; 1♂, 4. iii. 1984  
 [石下]; 1♀, 22. iv. 1984 [石下]; 1♀, 29. iv. 1984 [石下].  
 【入間郡大井町】大井・弁天の森, 1♀, 16. x. 1982 [腐植質]; 1♂, 23.  
 x. 1982 [腐植質].  
 【秩父郡東秩父村】笠山, 1♀, 25. vii. 1981.  
 【秩父郡大滝村】川又, 1♂, 26. vii. 1983; 三峰山, 1♂, 16. viii.  
 1984 [側溝: 小田晶採集].  
 【秩父郡荒川村】熊倉山, 1♂, 17. vi. 1985.  
 【秩父郡横瀬町】芦ヶ久保, 1♀, 23. ix. 1986 [側溝].
94. \*チビツヤムネハネカクシ *Heterothops cognatus* SHARP, 1874  
 【富士見市】上沢3丁目, 1♂ 2♀, 12. vii. 1986 [伐採木樹皮下].
95. \*ナミクシヒゲハネカクシ *Velleius dilatatus* (FABRICIUS, 1787)  
 【秩父郡大滝村】川又, 1♀, 24. viii. 1985 [灯火採集].
96. \*ツマグロツヤムネハネカクシ *Quedius flavicornis* SHARP, 1889  
 【比企郡小川町】青山, 1♂, 18. i. 1987 [倒木樹皮下].
97. \*イブシツヤムネハネカクシ *Quedius samuraicus* BERNHAUER et SCHUBERT,  
 1916  
 【秩父郡荒川村】熊倉山, 2♀, 26. vii. 1984 [樹皮下]; 1♀, 5. v. 1986  
 [樹皮下].
98. \*コガシラツヤムネハネカクシ *Quedius parviceps* SHARP, 1874  
 【秩父郡荒川村】熊倉山, 3♂, 28. vii. 1986 [溪流際岩石の苔下].  
 【秩父郡横瀬町】二子山, 5♂, 20. viii. 1986 [溪流際岩石の苔下].
99. \*ミドリオオメハネカクシ *Quedius multipunctatus* SHARP, 1889  
 【秩父郡荒川村】熊倉山, 1♂, 28. vii. 1986 [溪流際岩石の苔下].
100. \*ヤマトオオメハネカクシ *Quedius juno* SHARP, 1874  
 【秩父郡横瀬町】二子山, 1♂ 1♀, 4. vii. 1983 [叩き網採集].  
 【秩父郡荒川村】熊倉山, 1♂, 1. x. 1984 [樹皮下].

〈付記〉埼玉県産ハネカクシ科分布資料〔1〕[本誌(49):778-783]の学名について、  
 No.4 の種小名 lewisi を lewisi に、No.43 の属名 Sinius を Sunius に、また、  
 No.23 で属名変更を示す括弧が脱落、(SHARP, 1874) とそれぞれ訂正致します。  
 (おだ ひろし 〒354 富士見市上沢 3-6-15)

· · · · ·

## 神川村金鑽(かなさな)付近の蛾

市川 和夫

· · · · ·

神川村が実施している生物調査に寄与する目的で、金鑽神社の東方にある採石場の広場において、夜間誘蛾灯による採集を行い、13科161種の蛾を確認した。

ハマキガ、メイガ、ヒメシャク、ナミシャクなどの小型の蛾の飛来が目立ち、埼玉県動物誌に追加すべき種がかなり含まれているので、ここに記録しておく。

調査に同行され、便宜を計って下さった大熊光治、高橋八夫、引間章臣の諸氏に感謝申し上げる。

採集場所：埼玉県児玉郡神川村金鑽（群馬県境に近く、埼玉県立神川青年の家の南方）

採集年月日：1986年（昭和61年）6月14日

### 【採集品目録】

#### ADELINAE ヒゲナガガ科

- 1 Nemophora umbripennis STRINGER キオビクロヒゲナガ 1♂.

#### TORTRICIDAE ハマキガ科

- 1 Pandemis cinnamomeana (TREITSCHKE) アカトビハマキ 3♀2♂.
- 2 P. chlorographa MEYRICK ウストビハマキ 3♀4♂.
- 3 Archips audax RAZOWSKI アトキハマキ 3♂.
- 4 A. oporanus (LINNAEUS) マツアトキハマキ 2♂.
- 5 A. nigricaudanus. (WALSINGHAM) シリグロハマキ 1♀5♂.
- 6 Ptycholoma imitator (WALSINGHAM) アミメキイロハマキ 1♂.
- 7 Coresia conchyloides (WALSINGHAM) ネウスハマキ 1♀.
- 8 Tortrix sinapina (BUTLER) ウスアミメキハマキ 2♀.
- 9 Hystrichosolus spathanum WALSINGHAM コシロアシヒメハマキ 1♂.
- 10 Hedyia dimidiana (CLERCK) シロモンヒメハマキ 2♂.
- 11 H. vicinana (RAGONOT) シラフオオヒメハマキ 2♂.
- 12 Celypha flavipalpana (HERRICH-SCHÄFFER) コキスジオビヒメハマキ 5♂.
- 交尾器を検鏡。
- 13 Ancylis partitana (CHRISTOPH) カバカギバヒメハマキ 1♀.
- 14 Epinotia bicolor (WALSINGHAM) ヒロオビヒメハマキ 2♀.

- 15 *Zeiraphera fulvomixtana* KAWABE ミドリヒメハマキ 1♀1♂.  
 16 *Z. demutata* (WALSINGHAM) シロマルモンヒメハマキ 1♂.  
 17 *Epiblema pryerana* (WALSINGHAM) ブライヤヒメハマキ 1♀  
 18 *Cydia amurensis* (DANILEVSKY) シロツメモンヒメハマキ 1♀.

## GELECHIIDAE キバガ科

- 1 *Brachmia japonicella* (ZELLER) ウスヅマスジキバガ 1♂.

## LIMACODIDAE イラガ科

- 1 *Latoia sinica* (MOORE) クロシタオイラガ 1♂.

## PYRALIDAE メイガ科

- 1 *Chrysoteuchia diplogramma* (ZELLER) ウスクロスジツトガ 1♂.  
 2 *Crambus pseudargyrophorus* OKANO ニセシロスジツトガ 1♀.  
 3 *Neopediastis mixtalalis* (WALKER) クロフタオビツトガ 1♀4♂♂.  
 4 *Pycnarmon pantherata* (BUTLER) クロオビノメイガ 1♂.  
 5 *Pavuda quinquelineata* HERING マタスジノメイガ 1♂.  
 6 *Marasmia limbalis* WILEMAN ハカジモドキノメイガ 2♀♀.  
 7 *Analthes insignis* (BUTLER) キボシノメイガ 1♂.  
 8 *Nacoleia commixta* (BUTLER) シロテンキノメイガ 27 exs.  
 9 *Charema noctescens* MOORE キバラノメイガ 3♂♂.  
 10 *Pleuroptya balteata* (FABRICIUS) クロスジキンノメイガ 1♂.  
 11 *P. punctimarginalis* (HAMPSON) ウスイロキンノメイガ 2♂♂.  
 12 *P. brevipennis* INOUE ヒメウコンノメイガ 1♀. 三峰山の大輪で採集された個体がParatypeに含まれている。  
 13 *P. inferior* (HAMPSON) コヨツメノメイガ 1♂.  
 14 *P. chlorophanta* (BUTLER) ホソミスジノメイガ 1♂.  
 15 *Palpita nigropunctalis* (BREWER) マエアカスカシノメイガ 1♀4♂♂.  
 16 *Glyphodes dryeri* BUTLER スカシノメイガ 1♂.  
 17 *Circobotis aurealis* (LEECH) キベリハネボソノメイガ 1♀.  
 18 *Herpetogramma rufidis* (WARREN) マエキノメイガ 1♀.  
 19 *Prodasycnemis inornata* (BUTLER) キムジノメイガ 1♀6♂♂.  
 20 *Nomis albopedalis* MOTSCHULSKY ホシオビホソノメイガ 2♂♂.  
 21 *Paliga minnehaha* (PRYER) マエベニノメイガ 3♂♂.  
 22 *Pseudobulea fentoni* BUTLER モンスカシキノメイガ 1♂.  
 23 *Ostrinia scapularis* (WALKER) フキノメイガ 1♂.  
 24 *Demotrys per vulgalis* (HAMPSON) トカリキノメイガ 1♀5♂♂.  
 25 *Craneophora ficki* CHRISTOPHER ナカムラサキフトメイガ 1♂.  
 26 *Orthaga achatina* (BUTLER) ナカトビフトメガ 1♀.  
 27 *Hypsopygia regina* (BUTLER) トビイロシマメイガ 1♂.  
 28 *H. kawabei* YAMANAKA ウスモンマルバシマメイガ 1♀1♂.  
 29 *Orthopygia placens* (BUTLER) ツマキシマメイガ 1♂.  
 30 *Endotricha portialis* WALKER キベリトカリメイガ 1♀.  
 31 *Salebria semirubella* (SCOPOLI) アカマダラメイガ 1♀3♂♂. 多数が飛來した。神流川の河川敷にも多い。

32 *Conobathra rubiginella* INOUE ホソアカオビマダラメイガ 2♂♂. 交尾器検鏡。  
入間市仏子産の個体がParatypeに含まれている。

33 *Etiella zinckenella* (TREITSCHKE) シロイチモンジマダラメイガ. 1♀.

THYATIRIDAE トガリバガ科

1 *Habrosyne aurorina* (BUTLER) ヒメウスベニトガリバ 2exs.

GEOMETRIDAE シャクガ科

1 *Geometra diechmanni* GRAESER カギシロスシアオシャク 1♂.

2 *Chlorissa anadema* (PROUT) ホソバハラアカアオシャク 1♂.

3 *Comibaena procumbaria* (PRYER) ヨツモンマエジロアオシャク 1♂.

4 *Timandra comptaria* WALKER) コベニスジヒメシャク 1♂.

5 *T. apicirosea* (PROUT) フトベニスジヒメシャク 1♀.

6 *Scopula pudicaria* (MOTSCHULSKY) クロスジシロヒメシャク 1♂. 交尾器と  
cerataを検鏡。

7 *S. nupta* (BUTLER) サザナミシロヒメシャク 1♀. 交尾器検鏡。

8 *S. ignobilis* (WARREN) ウスキクロテンヒメシャク 4♀♀3♂♂. 交尾器検鏡。

9 *Idaea muricata* (HUFNAGEL) ベニヒメシャク 2♂♂.

10 *I. impexa* (BUTLER) キオビベニヒメシャク 1♀.

11 *I. biselata* (HUFNAGEL) ベニヒメシャク 2♂♂.

12 *Typloptera bella* (BUTLER) ホソバナミシャク 1♂.

13 *Orthonama obstipata* (FABRICIUS) トビスジヒメナミシャク 1♀.

14 *Evecliptopera decurrents* (MOORE) セスジナミシャク 1♀.

15 *Ecliptopera umbrosaria* (MOTSCHULSKY) オオハガタナミシャク 1♀1♂.

16 *Asthenes nymphaeata* (STAUDINGER) ムスジシロナミシャク 1♂. 交尾器検鏡。

17 *Chloroclystis obscura* WEST ハラアカウスアオナミシャク 1♀1♂. 雄の交尾  
器と雄の第♂腹板を検鏡。

18 *Melanthis procellata* (DENIS and SCHIFFERMULLER) ナカジロナミシャク 1♂.

19 *Lomogrpha bimaculata* (FABRICIUS) フタホシシロエダシャク 1♀1♂.

20 *L. subspersata* (WEHRLI) ウスフタスジシロエダシャク 1♂.

21 *Ninodes splendens* (BUTLER) ウチムラサキヒメエダシャク 1♀1♂.

22 *Plesiomorpha flaviceps* (BUTLER) マエキオエダシャク 1♀.

23 *Synegia hadassa* (BUTLER) ハグルマエダシャク 1♂.

24 *Semiothisa defixaria* (WALKER) フタテンオエダシャク 2♀♀2♂♂.

25 *S. hebesata* (WALKER) ウスオエダシャク 2♀♀1♂.

26 *Perchna albinigrata* WARREN ゴマダラシロエダシャク 1♀3♂♂.

27 *Arichanna jaguararia* (GUENEE) ヒョウモンエダシャク 2♂♂.

28 *Jankowskia fuscaria* (LEECH) チャノウンモンエダシャク 1♂.

29 *Hypomecis punctinalis* (SCOPOLI) ウスパミスジエダシャク 4♂♂.

30 *Apocleora rimosa* (BUTLER) クロクモエダシャク 1♂.

31 *Phthonosema tendinosaria* (BREMER) リンゴツノエダシャク 2♂♂.

32 *Heterarmia charon* (BUTLER) ナミカタエダシャク 2♀♀3♂♂.

33 *Ectonpis excellens* (BUTLER) オオトビスジエダシャク 1♂.

34 *Zethenia rufescensaria* MOTSCHULSKY ミスジツマキリエダシャク 1♀1♂.

- 35 *Pareclipsis gracilis* (BUTLER) ツマキリウスキエダシャク 1♀.  
 36 *Cephis advenaria* (HUBNER) アトボシエダシャク 1♂.  
 37 *Ourapteryx obtusicauda* (WARREN) コカタツバメエダシャク 1♀4♂.

## SPHINGIDAE スズメガ科

- 1 *Theretra japonica* (BOISDUVAL) コスズメ 2♂.

## NOTODONTIDAE シャチホコガ科

- 1 *Stauropus fagi* (LINNAEUS) シャチホコガ 6♂.  
 2 *Suzukiana cinerea* (BUTLER) スズキシャチホコ 1♀1♂.

## LYMANTRIIDAE ドクガ科

- 1 *Calliteara abietis* (DENIS and SCHIFFERMULLER) スギドクガ 1♀1♂.  
 2 *Laelia gigantea* BUTLER スゲオオドクガ 1♂.  
 3 *Euproctis similis* (FUESSLY) モンシロドクガ 1♂.

## ARCTIIDAE ヒトリガ科

- 1 *Filema deplana* (ESPER) ムジホソバ 1♀.  
 2 *Miltochrista miniata* (FORSTER) ベニヘリコケガ 3♀♀2♂.  
 3 *M. pallida* (BREMER) ハカタキコケガ 3♀♀2♂.  
 4 *M. striata* (BREMER and GREY) スジベニコケガ 4♀♀3♂.  
 5 *Spilosoma seriatopunctata* MOTSCHULSKY スジモンヒトリ 3♀♀.  
 6 *S. inaqualis* (BUTLER) カクモンヒトリ 1♀4♂.  
 7 *Rhyparioides nebulosus* BUTLER ベニシタヒトリ 2♀♀.  
 8 *Hyphantria cunea* (DRURY) アメリカシロヒトリ 1♂.

## NOLIDAE コフガ科

- 1 *Meganola fumosa* (BUTLER) クロスジコブガ 3♂.

## NOCTUIDAE ヤガ科

- 1 *Anacronicta nitida* (BUTLER) ウスベリケンモン 1♀.  
 2 *Agrotis segetum* (DENIS and SCHIFFERMULLER) カブラヤガ 1♂.  
 3 *Hermonassa cecilia* BUTLER クロクモヤガ 5♀♀2♂.  
 4 *Xestia c-nigrum* (LINNAEUS) シロモンヤガ 1♂.  
 5 *Mythimna turca* (LINNAEUS) フタオビキヨトウ 3♀♀5♂.  
 6 *Aletia placida* (BUTLER) クロシタキヨトウ 1♀1♂.  
 7 *Apamea hampsoni* SUGI ネスジシラクモヨトウ 1♀5♂.  
 8 *Nonagria turpis* BUTLER テンオビヨトウ 3♀♀1♂.  
 9 *Axylia putris* (LINNAEUS) モクメヨトウ 2 exs.  
 10 *Spodoptera depravata* (BUTLER) スジキリヨトウ 2♀♀.  
 11 *Athetis dissimilis* (HAMPSON) テンウスイロヨトウ 1♀1♂.  
 12 *A. lineosa* (MOORE) シロモンオヒヨトウ 7 exs.  
 13 *Antha grata* (BUTLER) ハイイロモクメヨトウ 1♂.  
 14 *Chytonix albonotata* (STAUDINGER) ネグロヨトウ 1♂.  
 15 *Oligonyx vulnerata* (BUTLER) ベニモンヨトウ 1♀.

- 16 Eucarta fasciata (BUTLER) シマヨトウ 1♂.  
 17 Hadjina biguttula (MOTSCHULSKY) フタテンヒメヨトウ 8 exs.  
 18 Earias pudicana STAUDINGER アカマエアオリンガ 1♀.  
 19 E. roseifera BUTLER ベニモンアオリンガ 1♀.  
 20 Maliattha vialis (MOORE) ネジロコヤガ 2♀♀.  
 21 Micardia argentata BUTLER シロヒシモンコヤガ 1♂.  
 22 Lithacodia pygarga (HUFNAGEL) シロフコヤガ 1♀.  
 23 L. stigia (BUTLER) ウスシロフコヤガ 2♀♀.  
 24 L. stygiodes (SUGI) ニセシロフコヤガ 1♀.  
 25 Neustrotia nolooides (BUTLER) エゾコヤガ 2♀♀.  
 26 Bryophilina mollicula (GRAESER) ウスアオモンコヤガ 1♀.  
 27 Hyperstrotia flavigipuncta (LEECH) モンキコヤガ 3♀♀.  
 28 Phyllophila oblitterata RAMBUR ヨモギコヤガ 2♀♀.  
 29 Naranga aenescens MOORE フタオビコヤガ 1♀.  
 30 Mocis undata (FABRICIUS) オオウンモンクチバ 1♂.  
 31 M. annetta (BUTLER) ウンモンクチバ 4♂♂.  
 32 M. ancilla (WARREN) ニセウンモンクチバ 1♂.  
 33 Spirama retorta (CLERCK) オスクロトモエ 1♂.  
 34 Mecodina subviolacea (BUTLER) ムラサキヒメクチバ 1♀.  
 35 M. nubiferalis (LEECH) シャクドウクチバ 1♂.  
 36 Pangrapta trimantesalis (WALKER) ウンモンツマキリアツバ 3♀♀2♂♂.  
 37 P. flavomacula STAUDINGER キモンツマキリアツバ 1♀.  
 38 P. albistigma (HAMPSON) ツマジロツマキリアツバ 1♀.  
 39 P. costinotata (BUTLER) マエモンツマキリアツバ 1♀.  
 40 Diomea cremata (BUTLER) ムラサキアツバ 1♂  
 41 Microxyla confusa (WILEMAN) スジモンアツバ 2♀♀1♂.  
 42 Anachrostis nigripunctalis (WILEMAN) クロテンカバアツバ 2♂♂.  
 43 Ectogonia butleri (LEECH) シロズアツバ 1♂.  
 44 Hypenomorpha calamina (BUTLER) ヒロバチヒトガリアツバ 1♂.  
 45 Hypena amica (BUTLER) クロキシタアツバ 1♀1♂.  
 46 H. trigonalis (GUENEE) タイワンキシタアツバ 1♀.  
 47 Bomolocha zilla (BUTLER) シラクモアツバ 1♀.  
 48 B. benepartia SUGI シモフリヤマガタアツバ 1♀.  
 49 Hydrillodes repugnalis (WALKER) ソトウスグロアツバ 4♀♀1♂.  
 50 Simplicia niphona (BUTLER) オオアカマエアツバ 5♂♂.  
 51 Zanclognatha fumosa (BUTLER) ウスグロアツバ 1♂.  
 52 Herminia dolosa BUTLER フシキアツバ 3♀♀1♂.  
 53 H. arenosa BUTLER ウスキミスジアツバ 17 exs.  
 54 H. tarsicrinialis (KNOCH) トビスジアツバ 3♀♀7♂♂.

( いちかわ かずお 〒336 浦和市南本町2-7-11 )

.....

## オオシモフリスズメの交尾目撃

西原 隆

西原 かよ子

西原 陽

.....

オオシモフリスズメ *Langia zenzeroides nawai Rothschild et Jordan* は、燐銀のように輝く翅と茅色の胴体を持つ美しい大型スズメガである。私達は1987年4月4日から4月20日にかけて、愛知県内の三箇所の産地へ10回足を運び、この早春の蛾を9頭採集した。そして、その間、オオシモフリスズメの交尾場面に遭遇したので報告申し上げる。

日時：1987年4月7日 午後10時40分

場所：愛知県豊田市加納町馬道通21

天候：濃霧後晴 肌寒かった

目撃場所付近には、何本か水銀灯があったが、その中でも比較的薄暗い水銀灯の横に、葉桜があった(樹高4メートルぐらい)。その桜の小枝に(地上より3メートルぐらいの高さ)交尾中の雌雄がいた。雌雄は各々が別の葉につかまり、相対して腹端を接していた。下から見上げると、雌雄の位置関係は、ほぼ水平に見えた。雄の方は、屋根型に翅を閉じていたようであるが、雌の方は、幾分逆三角状に翅を開いていたようである。棒で落とそうとしたところ、両個体は連結したまま、雄が葉につかまり上となり、雌は下となった。網の中へ入れても、すぐには交尾体勢を解かなかった。数回、シュツ、シュツもしくは、キュツ、キュツと発音した。なお、雌は4月8日午前2時頃、20数個の黄緑色の卵を産んだが、これらはいずれも未受精卵であった。

採集場所をお教え下さった名古屋昆虫館の岡田正哉先生に心から感謝申し上げます。

( にしはら たかし ・ にしはら かよこ ・ にしはら よう

〒461 名古屋市東区砂田橋3-2 大幸東団地111-703 )

.....

## 宿泊談話会での採集記録

森中 定治

.....

1986年8月9日から10日にかけて、栃木県奥塩原温泉付近で行われた、当会恒例の宿泊談話会において採集した若干の昆虫について報告する。

8月9日(土) 曇り時々雨

[ 鶴頂山にて ]	コキマダラセセリ	1♂(新鮮)
	ヒメキマダラヒカゲ	2♀(新鮮)
[ 夜:奥塩原温泉周辺にて ]	トゲバカミキリ	1ex.

8月10日(日) 晴れ

[ 大沼周辺にて ]	コムラサキ	2♂
	ヒオドシチョウ	1♂(破損)
	ウラギンヒョウモン	2♂, 4♀(新鮮)
	ウラギンスジヒョウモン	2♀(新鮮)
	ミスジチョウ	1♀(破損)
	ジャノメチョウ	2♂, 2♀
	ヒメシジミ	4♀(破損)

チョウは、種および雌雄確認後、放した。

未筆ながら、カミキリを同定していただいた会員の皆様にお礼申し上げます。

( もりなか さだはる 画333 川口市戸塚鉄町 11-8 )

1987年6月

寄せ蛾記 50号

埼玉県下でバンダイマイマイを採集

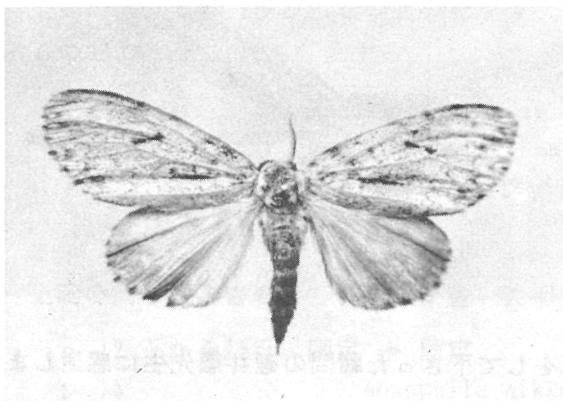
上尾高校生物部

埼玉県では未記録であったバンダイマイマイ *Lymantria bantaizana* Matsumura を以下のとおり採集したので報告します。

採集場所：埼玉県秩父郡大滝村三峰山山頂

採集日：1986年8月24日

採集個体：1♀（採集者は、上尾高校生物部）



当日は、三峰山山頂のバンガローに宿泊し、持参した誘蛾灯で夜間採集を行って、カトカラ類を中心に中～大型ガ類・クワガタ類を採集しました。

なお、本種をはじめとする当日の多数の採集品（ガ類）の同定を快く引き受けて下さり、本記録の発表を勧めて下さった市川和夫先生に感謝申し上げます。

（あげおこうこう せいぶつぶ 画362 上尾市浅間台1-6-1 上尾高校内）

北本市石戸宿におけるチャバネセセリの記録

佐藤 憲二

当会が昨夏までおこなっていた同地における昆虫調査では未記録であったチャバネセセリを採集したので報告する。石戸宿における本種の個体数は、オオチャバネセセリ・イチモンジセセリなどに比べてかなり少ないようである。

採集場所：北本市石戸宿

採集日：1986年10月10日

採集個体：1♂（やや汚損した個体）

採集者：佐藤 憲二（標本は上尾高校生物部が保管）

（さとう けんじ [上尾高校生物部員] 画362 上尾市浅間台1-6-1 上尾高校内）

## 北本市石戸宿でホンサナエを採集

森 博志

北本市石戸宿で、平野部では記録の少ないホンサナエ *Gomphus postocularis* を採集したので報告する。

採集場所：北本市石戸宿

採集日：1987年5月5日

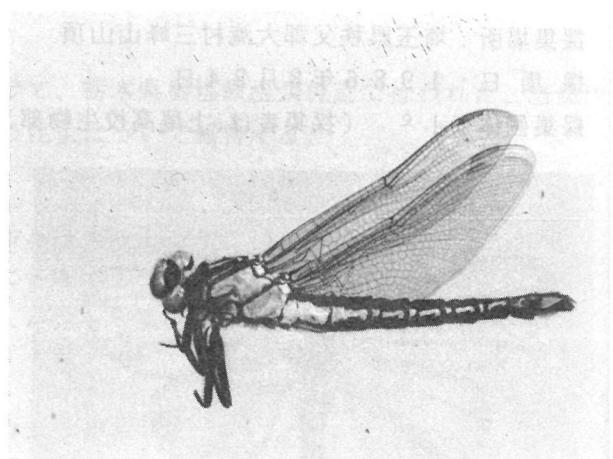
採集個体：1♀（未熟個体）

採集者：森 博志

当日は、他の上尾高校生物部員と共に昆虫類の調査を行っていたが、見慣れないトンボと思い採集した。発見したのはこの1頭のみで、採集した個体は翅がまだ柔らかく、羽化後間も無いと思われる。

未筆ながら、同定及び標本写真の撮影をして下さった顧問の碓井徹先生に感謝します。

（もりひろし [上尾高校生物部員] 画362 上尾市浅間台 1-6-1 上尾高校内）



## 北本市石戸宿のウラナミアカシジミ

斎藤 章・島崎 桂太

昨年まで埼玉昆虫談話会がおこなってきた北本市石戸宿の昆虫調査において採集例が1例のみであったウラナミアカシジミを、同地にて2回にわたり採集したので報告する。

1987年6月7日 1♂(新鮮個体) 斎藤 章 採集

1987年6月14日 1♂(新鮮個体) 斎藤 章 採集

同 日 1♂(やや汚損) 島崎 桂太 採集

【参考文献】山崎正則:北本市石戸宿の蝶類, 寄せ蛾記(48):717-723

(さいとう あきら・しまざき けいた [上尾高校生物部員]

画362 上尾市浅間台 1-6-1 上尾高校内)

・・・・・  
ヤマダカレハについての記事の訂正井上 寛・市川 和夫  
・・・・・

国指定天然記念物平林寺境内林保護増殖事業 - ヤマダカレハ関連・調査事業報告書.  
昭和62年3月, 埼玉県新座市.

上記の報告の p.1~2 に私の書いたヤマダカレハについての記事に次のような誤植があるので、本誌を借りて訂正する。

下から14行	yamundai → yamadai
下から11、12行	Derdnolimus → Dendrolimus
下から8行	ツガカレハ → クヌギカレハ

(井上 寛)

上記の同じ報告書のうち、市川が書いた部分の2箇所を、次の様に訂正する。

p.12 下から15行	固定 → 同定
p.15	5. Nomophila nikkoensis → Nomophila noctuella

なお、末尾の境内林の写真のうち、上方は1985年8月5日撮影、下方は1986年8月25日撮影である。

(市川 和夫)

・・・・・  
『朝霞市などで採集したエンマムシの記録』に関する訂正沢田 和宏  
・・・・・

本誌49号に掲載された、筆者による標題の報文の中に、以下のようない訂正がある。  
寄せ蛾記(49):786, 2 チュウジョウチビエンマムシ、4 ツヤマルエンマムシ の2種のそれぞれ学名の右肩に付けられている\*印をはずす。(すなわち、この2種は埼玉県初記録ではない)

・・・・・  
『北本市石戸宿の双し類』に関する訂正

玉木長寿

・・・・・

本誌48号『北本市石戸宿の昆虫（特集号）』に掲載された、玉木長寿「北本市石戸宿の双し類」に関して、以下のとおり訂正をする。

- p.714 上から 1行目 この地域の双シ類 → この地域の双し類（以下同様）  
2行目 過ぎないの思うが、→ 過ぎないと思うが、  
ツルギアブ科 1 Dialineura sp.の解説文のうち  
(1)の 6行目 黒色の白色の → 黒色と白色の  
(2)の 1行目 両複眼はholoptic → 両複眼はほとんどholoptic  
p.715 アシナガバエ科 Dorichopodidae → Dolichopodidae  
p.716 上から 3行目 模式産地とし、→ 模式産地と\_\_（カット）  
(5) Minthoini の15 Sumatrensis TOWNSENT → TOWNSEND

## 寄せ蛾記 50号 目次

市川 和夫	： 50号記念誌発行によせて	800
朝比奈正二郎	： 埼玉県産の昆蟲類の旧い記録	801
大野 正男	： 秋山蓮三と川越の昆蟲	803
井上 寛	： いるま蛾報(1)	805
白水 隆	： 西表島のワモンチョウの記録は誤報	808
長谷川 仁	： 埼玉県産江戸時代の昆蟲図(1)	810
市川和夫・碓井徹	： 金峰小屋で灯火採集した蛾	815
森中 香織	： 4月にオナガミズアオを採集	818
原 聖樹	： 県南平野部で確認した蝶	819
石澤 直也	： 蝶に関する海外の文献の紹介	823
杉田 正之	： 「オオムラサキの森」の現況	826
新井 裕	： 越辺川(越生町)のトンボ	827
西村 正賢	： 埼玉県日高町でヤマトヒバリを採集	829
小田 博	： 埼玉県産ハネカクシ科分布資料〔2〕	830
小田 博	： 埼玉県産ハネカクシ科分布資料〔1〕の訂正	834
市川 和夫	： 神川村金鑽(かなさな)付近の蛾	835
西原隆・西原かよ子・西原陽	： オオシモフリスズメの交尾目撃	840
森中 定治	： 宿泊談話会での採集記録	841
上尾高校生物部	： 埼玉県下でバンダイマイマイを採集	842
佐藤 憲二	： 北本市石戸宿におけるチャバネセセリの記録	842
森 博志	： 北本市石戸宿でホンサンエを採集	843
斎藤章・島崎桂太	： 北本市石戸宿のウラナミアカシジミ	843
井上寛・市川和夫	： ヤマダカレハについての記事の訂正	844
沢田 和宏	： 『朝霞市などで採集したエンマムシの記録』 に関する訂正	844
玉木 長寿	： 『北本市石戸宿の双し類』に関する訂正	845
(碓井徹)	： 総会の報告	845
	金曜セミナーの報告	846
	会報	847
	編集後記	849
《名簿追加》		